

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校	平成20年3月21日	牧田 行雄	〒 420-0822 (住所) 静岡県静岡市葵区宮前町110-11 (電話) 054-267-6330																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人 静岡理科大学	昭和27年3月31日	杉浦 哲	〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-202-2490																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
文化・教養	専門課程(文化・教養)	国際エアライン科 エアラインコース	平成21(2009)年度	-	平成28(2016)年度																													
学科の目的	客室乗務員として機内でお客様の安全を守り、快適な空の旅を提供するために必要な資質、知識、技術、マインドの習得を目指す。 また英語でのコミュニケーション能力の向上と関連資格の取得に加え、実践的な演習を通した様々な状況に対応できる現場力を身につける。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【取得可能な資格】TOEIC Listening&Reading Test、実用英語技能検定、全国手話検定試験5級、秘書技能検定試験2級、サービス接遇検定試験1級、日本語検定3級、ビジネス実務マナー検定試験2級、ビジネス文書検定試験2級、日本赤十字社救急法救急員、Powerpoint7レセプション技能認定試験初級、Excel表計算処理技能認定試験3級・中途退学率: 3.6%(令和5年度)																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,860 単位時間 単位	750 単位時間 単位	330 単位時間 単位	120 単位時間 単位	0 単位時間 単位	660 単位時間 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)																															
60人	27人	0人	0%																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>12</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>11</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>11</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>1</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>92</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>8</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>92</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) ・航空業界(客室乗務員、地上職)</p>						■卒業者数(C)	12	人	■就職希望者数(D)	11	人	■就職者数(E)	11	人	■地元就職者数(F)	1	人	■就職率(E/D)	92	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	8	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	92	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	12	人																																
■就職希望者数(D)	11	人																																
■就職者数(E)	11	人																																
■地元就職者数(F)	1	人																																
■就職率(E/D)	92	%																																
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	8	%																																
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	92	%																																
■進学者数	0	人																																
■その他																																		
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																	
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.s-air.ac.jp/course/air_01f_attendant/">https://www.s-air.ac.jp/course/air_01f_attendant/</a>																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,860 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,860 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>10 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位</td></tr> </table>						総授業時数	1,860 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,860 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	10 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位	うち必修授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位
総授業時数	1,860 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																	
うち必修授業時数	1,860 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	10 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																	
総授業時数	0 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位																																	
うち必修授業時数	0 単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>0人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	0人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																	
計	0人																																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

業界の基本的な知識やスキル、通常業務以外のイレギュラーにも対応できる力をロールプレイング授業等で身につける。最新の知識とともに企業が求める思考力や行動様式を取り入れる。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

業界や企業のニーズ・意見を教育に反映させるため、学校組織内における教育課程編成委員会の位置づけを「静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校、教育課程編成委員会の位置づけに係わる規則」として規定している。またその運営も「静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校委員会等の規則」として規定しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制となっている。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年2月1日現在

名前	所属	任期	種別
保坂 恭世	公益財団法人 実務技能検定協会 理事長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日（1年）	①
八太 健一郎	株式会社フジドリームエアラインズ客室乗員部 部長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日（1年）	③
牧田 行雄	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 校長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日（1年）	—
立石 公平	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 教務課長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日（1年）	—
中西 裕子	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 学科長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日（1年）	—
阪本 知恵	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 教員	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日（1年）	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。）

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回（7月、2月）

（開催日時（実績））

第1回 令和5年7月25日 13:30～14:30

第2回 令和6年2月27日 13:30～14:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・試験を突破できる周りに負けない強みに自信をもつことが、企業に認められるとの意見から、面接の授業では自己分析の徹底を強化した。自分史の作成と発表により、他と差がつく強みに気づき、自分自身を認め他からも認められることで、面接試験で効果的にアピールできることを目標にした。

・「考える事」の持続力を意識させ習慣にする教育により、社会性を身につけた人材を育成できる。このアドバイスを活かすため客室実習Ⅱでは、サービス実践授業としてお客様からのご要望に柔軟に対応する実習を実施。多くの場面を想定し、個々で考えぬいた対応方法で接客対応をする。サービススキルを問うものではなく、お客様の立場になり心地よいと思われる対応を考え実践できることを目標とした。

・社会人としての心構えを日ごろの教育で強化することが大切との意見から、授業以外のHR時間を活用し強化に努めている。身だしなみ言葉遣い等立居振舞全般、また報告方法においても、「航空会社で働くと考えて」「社会人としてふさわしい」等の言葉を意識的に用いることで学生の意識を高めている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

指導、評価をしていただく企業は、地元である静岡空港及び小牧空港を拠点とするリージョナル航空会社である。地域に貢献し安全を最優先に付加価値の高いサービスを生み出している。客室乗務員がどのようにお客様のご要望をくみ取り、サービスをおこなっているのかを具体的に指導いただける。また、静岡空港に保安訓練用の施設を保有しており、その施設を利用して学生が脱出訓練を行う。講師は、1コマ2名とし、現役教官またはそれに準ずる方の担当とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容  
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記  
 本科目は、本校担当講師と企業の講師との打ち合わせを行ったうえで授業を計画する。企業連携授業の前後には、本校担当講師が授業を行い、連携授業内容の知識と技能を定着させる。客室乗務員の業務を保安面とサービス面から実践的に学ぶものとし、常に最新の情報を授業内容に反映する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
客室実習Ⅰ	客室乗務員の業務の柱であるサービス業務と保安業務を、ロールプレイングを通して学ぶ。 機内という限られた空間を如何にして安全で快適な空間にするかは、客室乗務員の感性や行動によることを理解し、実践的に動くことができるようになることを目標とする。	株式会社フジドリームエアラインズ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記  
 教員研修担当を配置し、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図る為に「教職員研修」を企業及び研究機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。

(2)研修等の実績  
 ①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	客室乗務員研修	連携企業等:	ジェットスター・ジャパン株式会社
期間:	令和5年12月15日(金)	対象:	エアラインコース教員
内容	①乗務前ブリーフィング②保安業務に係る確認項目の説明③人事担当者・客室担当者との意見交換		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	人を励ます話し方「ペップトーク」	連携企業等:	(株)ウチダ人材開発センタ
期間:	令和6年1月5日(金)	対象:	全教員
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ペップトーク」の考え方を学び、理解し実践できるようにする。</li> <li>・授業や会議での発言をポジティブに変換することにより建設的な話し合いができるようにする。</li> <li>・何故ハラスメント(パワハラ・アカハラ)になるのか。</li> <li>・心に寄り添う真の意味でのポジティブ語とは。</li> </ul>		

研修名:	今を生きる若者の背景と価値観	連携企業等:	株式会社博報堂
期間:	令和6年1月9日(火)	対象:	全教員
内容	現代の若者の価値観や思考、行動の変容を知る		

(3)研修等の計画  
 ①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	客室乗務員ブラッシュアップ研修	連携企業等:	航空会社
期間:	令和6年12月	対象:	エアラインコース教員
内容	専門科目授業に取り入れるため、サービスや保安に係る最新の知識を学ぶ研修		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	未定	連携企業等:	未定
期間:	令和7年1月	対象:	全教員
内容	教員指導力向上のための研修		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針  
 本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として運営している。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	○教育理念並びに教育目標が明確に示されているか
(2)学校運営	○教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか
(3)教育活動	○シラバスが作成され学生に配布されているか

(4)学修成果	○就職率の向上が図られているか
(5)学生支援	○進路・就職に関する支援体制は整備されているか
(6)教育環境	○講義室、実習室の管理は適切に行われているか
(7)学生の受入れ募集	○入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか
(8)財務	○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
(9)法令等の遵守	○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
(10)社会貢献・地域貢献	○学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている
(11)国際交流	○留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会後に意見を取り纏め、学校としての対応を決定。1年間を通して改善に努め、次回の委員会時に改善を報告する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任 期	種 別
大石 齊	矢崎総業株式会社	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
八太 健一郎	株式会社フジドリームエアラインズ	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
井澤 友行	株式会社センチュリーアンドカンパニー	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
増崎 陽介	株式会社 ANACargo	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
内野 龍樹	株式会社安心堂	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
平岩 美貴代	株式会社ドリームスカイ名古屋	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
関 理恵	ANAエアポートサービス株式会社	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
村山 弘之	株式会社JTB	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
澁谷 妙子	株式会社ジェイアール東海ホテルズ ホテルアソシア静岡	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
塚本 裕作	卒業生(同窓会会長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生
高橋 美江	在校生保護者(後援会会長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	在校生の 保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/>

公表時期: 令和6年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動及び学校運営についての理解を求め、企業等の関係者との連携及び協力の推進に資するため、詳細について「学校評価報告書」と「学校情報」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	入学者数、学修時間数、取得可能資格、卒業者数、主な就職先
(3)教職員	教職員数、組織、研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6)学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8)学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣状況
(11)その他	その他の教育活動(附帯事業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/>

公表時期: 令和6年6月30日

授業科目等の概要

(専門課程(文化・教養) 国際エアライン科エアラインコース)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○		コミュニケーションサポート I	入学式、始業式、終業式など学内の各種行事を実施するための科目です。集団行動や活動を通してコミュニケーション力の向上を図ります。	1通	30	1			○	○	○	○		
2	○		立居振舞い	社会に出る前の準備として、立ち居振る舞いと自己表現力の強化を図ります。所作、表現力、話す力等、就職活動の基本を学び習得することを目標とします。	1後	30	1			○	○		○		
3	○		キャリアサポート I	就職活動開始までに、必要な基本スキルの習得を目標とします。目指す業界を決め、スムーズなスタートを切るため、各種情報の集め方や筆記試験対策、業界セミナー等を行います。	1通	90	6	○	△		○			○	
4	○		I C T リテラシー I	プレゼンテーション、文章作成、表計算など、パソコン基本ソフトを実技レベルで学習します。また、Microsoft365のクラウドサービスを活用し、通信技術利用のコミュニケーションスキルを磨きます。	1通	60	2			○	○		○	○	
5	○		英 会 話 I	6段階のレベル別クラス編成で、自分自身について英語で表現できることを目標とします。一人ひとりが考えと意見を持つことを重視し、タスクベースのアクティビティを行います。	1通	60	2			○	○		○	○	
6	○		英 語 検 定 I	6クラス編成によりそれぞれが目指す級、及びスコアの早期取得を目標とします。総合的な英語力育成のため、講義と併せアウトプットの活動も並行して行います。	1通	##	8	○	△		○		○	○	
7	○		マ ナ ー ・ 接 遇 I	社会人としてのマナーや接客対応の考え方を学び必要な資質を身につける事を目標とします。また、サービス接客検定や日本語検定取得をめざして検定対策授業も行います。	1通	90	3			○	△	○		○	○
8	○		ボイストレーニング I	自分の声を知り、声のコントロール法を習得することを目標とします。発声・呼吸・滑舌を軸に自分の声を自覚し、磨き鍛える学習をします。	1通	30	1			○	○			○	
9	○		イ メ ー ジ ア ッ プ I	清潔感のある身だしなみを基本として、ヘアメイク・スキンケア等、メイクの基本を学びます。セルフブランディングに基づき業界に応じたイメージアップを目標とします。	1通	30	1			○	○		○	○	
10	○		第 二 外 国 語 I	英語以外の外国語として、中国語または韓国語を選択し、文字や発音などの基礎から学習します。将来の職業を想定し、接客に活かせる会話文を実践的に習得することを目標とします。	1通	60	4	○	△		○			○	

11	○		エアラインTOEIC 対策 I	客室乗務員採用試験に必須のTOEICスコアを伸ばすための授業です。問題形式に慣れ、反復演習を行うことで、1年次の目標スコアを600点とし、効率の良い学習を行います。	1 通	60	4	○	△	○	○							
12	○		エアライン筆記試験対策	客室乗務員採用試験の筆記試験対策を行います。オンライン形式にも対応できるよう、非言語分野を中心に解答パターンを学び、スピードと正確性を高めます。	1 通	30	2	○	△	○	○							
13	○		客 室 実 習 I	機内での接客業務全般について学び、言葉遣いや立ち居振る舞いなど、実践を通してスキルを習得します。また、保安業務の理解を深め、責任感を高めていきます。(株)フジドリームエアラインズとの連携授業を実施します。	1 通	60	2			○	○	○	○					
14	○		航 空 基 礎 知 識	航空業界の仕事を理解し客室乗務員として身につけておきたい専門用語や航空機に関わる知識の習得を目標とします。併せて運航に関わる気象やルートについても学びます。	1 通	30	2	○		○	○	○						
15	○		面 接 対 応 I	対面やオンライン形式で実施される客室乗務員の採用面接に対応できる振る舞いや会話術を身につけます。第一印象の好感度を上げたうえで、自己表現力を磨きます。自己PR動画の作成も行います。	1 通	30	1			○	○	○						
16	○		手 話 演 習	手話の基礎を学び、手話検定5級の取得を目標とします。手話会話者との実践授業を通して、知識だけではなく心の伴った手話会話ができることを目指します。	1 通	30	1	△	○		○	○						
17	○		エアラインマインド I	客室乗務員向きの思考回路と行動様式を学び、自分自身をその姿に近づけていく授業です。感性を磨き自己管理能力を身につけ、判断力と実行力を高めます。	1 通	30	2	○		○	○	○						
18	○		海 外 研 修	海外渡航の経験はもちろんのこと語学研修やアクティビティを通して、英語・外国語を実践しながら国際感覚を身につけ、異文化を体験・理解することを目的とします。	1 後	60	2			○	○	○						
19	○		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン サ ポ ー ト Ⅱ	学内の各種行事を実施するための科目です。集団行動や活動を通して多くの交流をもつことを目的とします。また、観光分野知識として、国内外の観光地理の基礎も学習します。	2 通	30	1			○	○	○	○					
20	○		キャリアサポートⅡ	目指す業界への就職内定と、就職後必要となる社会的知識の習得を目標とします。社会に出るための事前準備として、知識を広げることを目的とした教養講座を行います。	2 通	60	2			○	○	○						
21	○		I C T リテラシーⅡ	パソコンの幅広い活用方法習得を目的としExcel検定への挑戦やWordを利用したレポート作成を行います。また情報化社会には欠かせない知識として、セキュリティやモラル、個人情報や著作権についても学習します。	2 通	60	2			○	○	○	○					
22	○		英 会 話 Ⅱ	1年次の応用として、より高度な語彙を使い、会話の展開が出来る力の育成を目標とします。毎授業、異なったテーマでそれに基づいた会話の実践をペア・グループワークで学びます。	2 通	60	2			○	○	○	○					

23	○		英語検定Ⅱ	6クラス編成によりそれぞれが目指す級、及びスコアの取得と更新を目標とします。出題傾向を掴み、英語の運用能力を身に付けるため、4技能を意識した反復練習を行います。	2通	##	8	○	△	○	○	○
24	○		マナー・接客Ⅱ	社会人としてのマナーや接客時に心掛けないといけないことを引き続き学習します。資格としてビジネス実務マナー検定や文書検定、サービス接客検定の上級合格を目標とします。	2通	90	3	○	○	○	○	
25	○		ボイストレーニングⅡ	的確に声のコントロールが出来ることを目標とします。1年次に習得したことを強化し、応用編として好感が持てる声を目指してトレーニングを行います。	2通	30	1		○	○		○
26	○		イメージアップⅡ	1年次に引き続き、全身のイメージアップを目標に色彩（カラーコーディネート）を学び、自身を更に輝かせるためのブラッシュアップを行います。	2前	30	1		○	○	○	○
27	○		第二外国語Ⅱ	1年次に引き続き、中国語または韓国語を選択し、接客のあらゆる場面で使われる会話をロールプレイ形式で学習します。応用力を深め、即戦力として使えることを目標とします。	2通	60	4	○	△	○		○
28	○		エアラインTOEIC対策Ⅱ	客室乗務員採用試験に必須のTOEICスコアを伸ばすための授業です。1年次から継続して学び、2年次前期の目標スコア600点以上に向けて、更なるスコアアップを目指します。	2通	60	4	○	△	○		○
29	○		エアライン英語	機内でお客様対応時に使用する接客英語、また、乗務員同士が業務で使用する航空基礎英語の習得を目的とします。訓練で習得する知識を英語で学習し、様々な表現や単語に触れ、英語力向上を目指します。	2通	30	1	△	○	○		○
30	○		客室実習Ⅱ	客室実習Ⅰで学んだ基本的な業務の理解を深め、よりスムーズなお客様対応ができることを目標とします。機内で想定されるクレーム対応、イレギュラー対応等、状況に合わせ臨機応変に対応できる力を養います。	2通	60	2		○	○		○
31	○		面接対応Ⅱ	個人面接、グループ面接への対応力をつけることに加え、グループディスカッション、プレゼンテーション、ディベートなど様々な形式で自己表現力と会話力を磨きます。	2通	30	1		○	○		○
32	○		サービス介助	機内で使われる接客手話の習得を目指します。また、サービス介助士資格を持つ教員から、お手伝いが必要なお客様への気づき方やサービスと介助方法を学びます。	2通	30	1	△	○	○		○
33	○		エアラインマインドⅡ	1年次に身につけた感性と自己管理能力に加え、目標に向かって努力し続けられる強い精神力と他者を思いやるマインドを持ち行動できることを目指します。	2通	30	2	○	△	○		○
34	○		異文化研究	お客様はもちろん、一緒に働くクルーも多国籍であるという環境では、異文化理解が必要です。文化の違いを理解した上で、それを意識したサービスができるように様々な国の習慣や文化を学びます。	2通	30	2	○		○		○

35	○	TOEIC 上級 【必修選択科目】	航空業界で働き続けるためにはTOEICスコアの維持が必要です。採用試験対策にとどまらず社会に出てからも学習を続けられる素地を養い、自己最高得点の取得を目指します。	2 後	30	2	○	△	○	○				
36	○	秘書知識 【必修選択科目】	秘書業務に限らず、社会人として心得ておきたい接遇マナーや文書作成などを学びます。また、経済用語や社交上の知識など組織で役に立つ知識を習得します。秘書検定2級の取得を目指します。	2 後	30	2	○	△	○	○				
37	○	卒業課題	ディプロマポリシーを基盤として2年間で習得した知識やスキルを振り返ることを行います。その学びの集大成としての課題を目に見える形で作り上げることを目標とします。	2 後	90	3			○	○	○	○		
合計					37 科目		1860 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： <ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価の科目がないこと</li> <li>・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること</li> <li>・学納金の未納がない事</li> </ul>		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： <ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目は全て履修を行い、選択科目は対象科目から選択とする</li> </ul>		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																													
静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校		平成20年3月21日		牧田 行雄		〒 420-0822 (住所) 静岡県静岡市葵区宮前町110-11 (電話) 054-267-6330																													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																													
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-202-2490																													
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
文化・教養	専門課程(文化・教養)	国際エアライン科 グランドスタッフコース		平成21(2009)年度	-	平成28(2016)年度																													
学科の目的	航空機の円滑な運航を支援する空港地上支援スタッフの業務を理解し、グランドスタッフからハンドリング分野までの高い専門性を習得する。カウンター業務や空港内サービス、機内業務など幅広い知識とプロ意識を持った人材を育成する。業界にふさわしい立ち居振る舞い、専門英語力、臨機応変な接客スキルを身につけ、即戦力となることを目標とする。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【取得可能な資格】TOEIC Listening&Reading Test、実用英語技能検定、全国手話検定試験5級・4級、サービス接客検定試験準1級、日本語検定3級、ビジネス実務マナー検定試験2級、ビジネス文書検定試験2級、日本赤十字社救急法救急員、Powerpoint7プレゼンテーション技能認定試験初級、Excel表計算処理技能認定試験3級、アマテウスシステム検定Reservation・中途退学率:3.2%(令和5年度)																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,860 単位時間 単位		720 単位時間 単位	360 単位時間 単位	180 単位時間 単位	0 単位時間 単位	600 単位時間 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																															
60人	27人	1人		4%																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業生数(C)</td><td>16</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>16</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>16</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>3</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>19</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) ・航空業界(グランドスタッフ、グランドハンドリング)</p>							■卒業生数(C)	16	人	■就職希望者数(D)	16	人	■就職者数(E)	16	人	■地元就職者数(F)	3	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	19	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業生数(C)	16	人																																	
■就職希望者数(D)	16	人																																	
■就職者数(E)	16	人																																	
■地元就職者数(F)	3	人																																	
■就職率(E/D)	100	%																																	
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	19	%																																	
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%																																	
■進学者数	0	人																																	
■その他																																			
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: _____ 受審年月: _____ 評価結果を掲載したホームページURL: _____</p>																																		
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.s-air.ac.jp/course/air_03air_cargo/">https://www.s-air.ac.jp/course/air_03air_cargo/</a>																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,860 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,860 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>32 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>4 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位</td></tr> </table>							総授業時数	1,860 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,860 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	32 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	4 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位	うち必修授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位
総授業時数	1,860 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																		
うち必修授業時数	1,860 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	32 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	4 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																		
総授業時数	0 単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位																																		
うち必修授業時数	0 単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数: 0人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	0人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																		
計	0人																																		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界の基本的な知識やスキル、通常業務以外のイレギュラーにも対応できる力をロールプレイング授業等で身につける。最新の知識とともに企業が求める思考力や行動様式を取り入れる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

業界や企業のニーズ・意見を教育に反映させるため、学校組織内における教育課程編成委員会の位置づけを「静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校、教育課程編成委員会の位置づけに係わる規則」として規定している。またその運営も「静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校委員会等の規則」として規定しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制となっている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年2月1日現在

名前	所属	任期	種別
保坂 恭世	公益財団法人 実務技能検定協会	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	①
平岩 美貴代	株式会社ドリームスカイ名古屋	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	③
関 理恵	ANAエアポートサービス株式会社	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	③
牧田 行雄	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 校長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—
立石 公平	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 教務課長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—
中西 裕子	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 学科長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 2023年7月25日(火)15:00～16:00

第2回 2024年2月27日(火)15:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

企業で求められる人材として、自立的に考え、行動し、発信できることが重要であるとの意見から、1年生はHR内の日常指導に重点を置いている。気づきの力の基本を徹底し、毎朝のエアライン業界の雑誌記事から1つ選びプレゼンテーションを実施し、それに対するコメントを発表することで発信力を強化。

2年生には、目標(生活面・学習面)シートを毎週記入させることで、早期就業に向けての自己の振り返りを今一度徹底し、自立することを目指している。

さらに、国際エアライン科として、企業でも実施されている「いいね BOX」を設置し、

他の学生を観察し、他の良い点を観察し認める力、自ら進んで行動できる力の強化を実施。

また、「社会人耐久力」を育成する授業運営との意見から、意見の発信力、またその意見に対する反対論にも耐えうる精神力の育成を目標に、意見の交換ができるグループワーク等をGSキャリアデザイン授業に取り入れ、早期就業に向けての準備をしている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

①指導・評価をくださる企業は、日本の5大空港の一つである中部国際空港にある企業である。スカイトラックス社の空港総合ランキングでは常に20位以内にランクされ、地域空港ではトップでもある。その評価に値する空港で優れた接客レベルを以て、お客様への対応や国内線、国際線の便をバランスよく担っている。その専門的なハンドリング術、おもてなしの心をマインドの面からも指導いただける。

②指導・評価をくださる企業は、日本の5大空港の一つである中部国際空港にあり、日本で唯一、作業運転訓練所を有し、多くの特殊車両を有する企業である。これまでに、夏季インターンシップ、個別会社説明会等実施くださっている。専門的なグランドハンドリング業務だけでなく、横断幕での航空機の見送りの継続等、業務だけではなくお客様を第一に大切にされているおもてなしの心は、グランドスタッフコースが目指すディプロマポリシーにも通じ、マインドの面も指導いただける。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

①当科目は本校担当講師と企業の講師と打ち合わせを実施したうえで授業を計画する。連携授業は6月、9月、10月に実施。6月は空港研修も含む。講義では業務の詳細を学び、ロールプレイでは、その手順や所作を実践的に学ぶ。また日々変化する航空業界の最新の情報やルールを常に授業に反映する。企業連携授業の前後は、本校担当講師が授業を実施し、連携授業の内容にプラスしながら、その知識と理解を深める。後期には評価を付ける。

② 当科目は本校担当講師と企業の講師と打ち合わせを実施したうえで授業を計画する。連携授業は6月、9月、10月に実施。6月は空港研修も含む。講義だけではなく、教室内で実施できる実物を用いての実技等、実践的に学び、最新の情報を常に授業に反映する。企業連携授業の前後は、本校担当講師が授業を実施し、連携授業の内容にプラスしながら、その知識と理解を深める。後期には、筆記試験で評価を付ける。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
旅客実習Ⅰ	運航支援業務の一つであるグランドスタッフ業務の基礎知識を習得する。チェックイン、アナウンス等の実技、及びカウンター業務からゲート業務に至るまでの一連の業務内容の詳細を知ること、グランドスタッフの資質を理解し接客対応のホスピタリティを学ぶことを目的とする。	株式会社ドリームスカイ名古屋

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修担当を配置し、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図る為に「教職員研修」を企業及び研究機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	グランドスタッフ研修	連携企業等:	スカイマーク株式会社
期間:	2月22日(木)	対象:	グランドスタッフコース教員
内容	①地上旅客職と客室乗務員の業務内容②キャリアアップ③訓練施設見学④バゲージクレーム業務見学等		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	人を励ます話し方「ペップトーク」	連携企業等:	㈱ウチダ人材開発センタ
期間:	令和6年1月5日(金)	対象:	全教員
内容	・「ペップトーク」の考え方を学び、理解し実践できるようにする。 ・授業や会議での発言をポジティブに変換することにより建設的な話し合いができるようにする。 ・何故ハラスメント(パワハラ・アカハラ)になるのか。 ・心に寄り添う真の意味でのポジティブ語とは。		

研修名:	今を生きる若者の背景と価値観	連携企業等:	株式会社博報堂
期間:	令和6年1月9日(火)	対象:	全教員
内容	現代の若者の価値観や思考、行動の変容を知る		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	グランドスタッフ研修	連携企業等:	航空会社
期間:	令和7年2月	対象:	グランドスタッフコース教員
内容	旅客ハンドリングに係る研修		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	未定	連携企業等:	未定
期間:	令和7年1月	対象:	全教員
内容	教員指導力向上のための研修		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として運営している。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	○教育理念並びに教育目標が明確に示されているか
(2)学校運営	○教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか
(3)教育活動	○シラバスが作成され学生に配布されているか
(4)学修成果	○就職率の向上が図られているか
(5)学生支援	○進路・就職に関する支援体制は整備されているか
(6)教育環境	○講義室、実習室の管理は適切に行われているか
(7)学生の受入れ募集	○入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか
(8)財務	○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
(9)法令等の遵守	○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
(10)社会貢献・地域貢献	○学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
(11)国際交流	○留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会後に意見を取り纏め、学校としての対応を決定。1年間を通して改善に努め、次回の委員会時に改善を報告する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
大石 斉	矢崎総業株式会社	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
八太 健一郎	株式会社フジドリームエアラインズ	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
井澤 友行	株式会社センチュリーアンドカンパニー	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
増崎 陽介	株式会社 ANACargo	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
内野 龍樹	株式会社安心堂	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
平岩 美貴代	株式会社ドリームスカイ名古屋	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
関 理恵	ANAエアポートサービス株式会社	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
村山 弘之	株式会社JTB	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
澁谷 妙子	株式会社ジェイアール東海ホテルズ ホテルアソシア静岡	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
塚本 裕作	卒業生(同窓会会長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生
高橋 美江	在校生保護者(後援会会長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	在校生の 保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/>

公表時期: 令和6年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動及び学校運営についての理解を求め、企業等の関係者との連携及び協力の推進に資するため、詳細について「学校評価報告書」と「学校情報」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	入学者数、学修時間数、取得可能資格、卒業者数、主な就職先
(3)教職員	教職員数、組織、研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6)学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8)学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣状況
(11)その他	その他の教育活動(附帯事業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他( ))

URL: <https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/>

公表時期: 令和6年6月30日

授業科目等の概要

(専門課程 (文化・教養) 国際エアライン科グランドスタッフコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実 験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		コミュニケーションサポート I	入学式、始業式、終業式など学内の各種行事を実施するための科目です。集団行動や活動を通してコミュニケーション力の向上を図ります。	1通	30	1			○	○	○	○		
2	○		立居振舞い	社会に出る前の準備として、立ち居振る舞いと自己表現力の強化を図ります。所作、表現力、話す力等、就職活動の基本を学び習得することを目標とします。	1後	30	1			○	○		○		
3	○		キャリアサポート I	就職活動開始までに、必要な基本スキルの習得を目標とします。目指す業界を決め、スムーズなスタートを切るため、各種情報の集め方や筆記試験対策、業界セミナー等を行います。	1通	90	6	○	△		○				○
4	○		I C T リテラシー I	プレゼンテーション、文章作成、表計算など、パソコン基本ソフトを実技レベルで学習します。また、Microsoft365のクラウドサービスを活用し、通信技術利用のコミュニケーションスキルを磨きます。	1通	60	2			○	○			○	○
5	○		英会話 I	6段階のレベル別クラス編成で、自分自身について英語で表現できることを目標とします。一人ひとりが考えと意見を持つことを重視し、タスクベースのアクティビティを行います。	1通	60	2			○	○			○	○
6	○		英語検定 I	6クラス編成によりそれぞれが目指す級、及びスコアの早期取得を目標とします。総合的な英語力育成のため、講義と併せアウトプットの活動も並行して行います。	1通	##	8	○	△		○			○	○
7	○		マナー・接遇 I	社会人としてのマナーや接客対応の考え方を学び必要な資質を身につける事を目標とします。また、サービス接遇検定や日本語検定取得をめざして検定対策授業も行います。	1通	90	3	○	△		○			○	○
8	○		ボイストレーニング I	自分の声を知り、声のコントロール法を習得することを目標とします。発声・呼吸・滑舌を軸に自分の声を自覚し、磨き鍛える学習をします。	1通	30	1			○	○				○
9	○		イメージアップ I	清潔感のある身だしなみを基本として、ヘアメイク・スキンケア等、メイクの基本を学びます。セルフブランディングに基づき業界に応じたイメージアップを目標とします。	1通	30	1			○	○			○	○
10	○		第二外国語 I	英語以外の外国語として、中国語または韓国語を選択し、文字や発音などの基礎から学習します。将来の職業を想定し、接客に活かせる会話文を実践的に習得することを目標とします。	1通	60	4	○	△		○				○

11	○		旅 客 実 習 I	搭乗カウンター・ゲート・アナウンスなどの旅客ハンドリングの基礎知識と様々な場面に対応できる判断力を演習により習得します。(株)ドリームスカイ名古屋との企業連携授業を実施します。	1 通	30	1			○	○	○	○
12	○		T I M I	各国のパスポート・ビザ・入国の際の規則についての英文をT I M (Travel Information Manual)を使用し、読み取る基礎力を身に付けます。	1 後	30	2	○	△		○		○
13	○		航 空 基 礎 知 識	航空業界の仕事を理解し、そこで働く者にとって必須知識である専門用語、レターコードの習得を目標とします。また、航空地理や機体構造についても学びます。	1 前	30	2	○			○		○
14	○		S P I 対 策	グランドスタッフ採用試験の筆記試験対策を行います。オンライン形式にも対応できるよう、非言語分野を中心に解答パターンを学び、スピードと正確性を高めます。	1 通	30	2	○	△		○		○
15	○		T O E I C ボキャブラリー	採用試験に必須の英語資格基準であるTOEIC550点に向けてボキャブラリーを強化し、スコアアップを目標とします。TOEIC形式の問題も組み込むことで、ボキャブラリーを徹底的に身に付けます。	1 通	30	2	○	△		○		○
16	○		面 接 対 応	航空業界の面接試験の対応力を対面・オンラインの両面から習得することを目指します。姿勢や発声、第一印象等に繋がるアピランスからグループ面接も含め、幅広く学びます。	1 通	30	1			○	○		○
17	○		航空予約システム演習 I	国際線の航空予約システムamadeusの操作習得を目標とします。空港・航空会社コード等の基本的な検索から、フライト情報や空席照会を学ぶことで、基本的な予約を作成するスキルを習得します。	1 後	30	1			○	○		○
18	○		グランドハンドリング概論	運航支援業務の基礎知識の習得を目標とします。航空機の到着から出発までの一連の作業種類や手順をはじめ、使用機材、滑走路、ウエイトアンドバランスなど幅広く学びます。中部スカイサポート(株)との連携授業を実施します。	1 通	30	2	○	△		○		○
19	○		手 話 I	手話の基礎を学び手話検定5級の取得を目標とします。手話話者との実践授業を通して、知識だけではなく心の伴った手話会話ができることを目指します。	1 通	30	1	△	○		○		○
20	○		海 外 研 修	海外渡航の経験はもちろんのこと語学研修やアクティビティを通して、英語・外国語を実践しながら国際感覚を身につけ、異文化を体験・理解することを目的とします。	1 後	60	2			○		○	○
21	○		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン サ ポ ー ト I I	学内の各種行事を実施するための科目です。集団行動や活動を通して多くの交流をもつことを目的とします。また、観光分野知識として、国内外の観光地理の基礎も学習します。	2 通	30	1			○	○	○	○
22	○		キ ャ リ ア サ ポ ー ト I I	目指す業界への就職内定と、就職後必要となる社会的知識の習得を目標とします。社会に出るための事前準備として、知識を広げることが目的とした教養講座を行います。	2 通	60	2	○			○		○

23	○		I C T リテラシー II	パソコンの幅広い活用方法習得を目的とし、Excel検定への挑戦やWordを利用したレポート作成を行います。また、昨今の情報化社会には欠かせない知識として、セキュリティやモラル、個人情報や著作権についても学習します。	2通	60	2			○	○	○	○	
24	○		英 会 話 II	1年次の応用として、より高度な語彙を使い、会話の展開が出来る力の育成を目標とします。毎授業、異なったテーマでそれに基づいた会話の実践をペア・グループワークで学びます。	2通	60	2			○	○	○	○	
25	○		英 語 検 定 II	6クラス編成によりそれぞれが目指す級、及びスコアの取得と更新を目標とします。出題傾向を掴み、英語の運用能力を身に付けるため、4技能を意識した反復練習を行います。	2通	##	8	○	△		○	○	○	
26	○		マ ナ ー ・ 接 遇 II	社会人としてのマナーや接客時に心掛けなければならないことを引き続き学習します。資格としてビジネス実務マナー検定や文書検定、サービス接客検定の上級合格を目標とします。	2通	90	3			○		○	○	
27	○		ボイストレーニング II	的確に声のコントロールが出来ることを目標とします。1年次に習得したことを強化し、応用編として好感が持てる声を目指してトレーニングを行います。	2通	30	1				○	○		○
28	○		イ メ ー ジ ア ッ プ II	1年次に引き続き、全身のイメージアップを目標に色彩（カラーコーディネート）を学び、自身を更に輝かせるためのブラッシュアップを行います。	2前	30	1				○	○	○	○
29	○		第 二 外 国 語 II	1年次に引き続き、中国語または韓国語を選択し、接客のあらゆる場面で使われる会話をロールプレイ形式で学習します。応用力を深め、即戦力として使えることを目標とします。	2通	60	4	○	△			○		○
30	○		旅 客 実 習 II	1年次に学んだ基礎を踏まえ、更に専門的なイレギュラー対応、クレーム対応などを学びます。様々なシチュエーションに臨機応変に対応できるマインドとホスピタリティの育成を目標とします。	2通	60	2				○	○		○
31	○		T I M II	1年次の応用として、乗継便のルールも学びます。また、ロールプレイを通して搭乗カウンターで実際にTIMATICとパスポートを確認、速読、出国の可否を判断し、実践的なお客様対応ができる力を身に付けることを目標とします。	2通	30	2	○	△			○		○
32	○		プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	お客様との会話や職場での報連相に通じる話し方で「伝える・伝わる」重要性を多面的に学びます。論理的に考え、筋道を立てて話せる技術を身につけることを目標とします。	2通	30	1			○	△	○		○
33	○		航空予約システム演習 II	1年次に引き続き、予約作成のオペレーションスキルを学びます。運賃計算や特別サービスリクエストを含む応用スキルを習得し、正確かつ迅速に予約を作成しアマデウスシステム検定の初級合格を目指します。	2通	30	1				○	○		○
34	○		手 話 II	1年次に引き続き、手話検定4級の取得を目標とします。手話会話者との実践授業を通して空港スタッフの幅広い接客会話も習得します。専門的な知識だけではなく、ホスピタリティ溢れる手話会話を目指します。	2通	30	1	△	○			○		○



35	○		サービス介助	高齢者や配慮の必要なお客様に広い空港内を快適にご利用いただけるよう、サービス介助士の資格を有する教員から気配りやサービスと介助の方法を学びます。即戦力となる介助方法の習得を目標とします。	2通	30	1	△	○	○	○						
36	○		G S キャリアデザイン	航空会社への就職を目指し、必要とされる要素をあらゆる面から学びます。エントリーシートや社会人としてのマナーにも特化し、将来社会で活躍できる人材としてのマインド強化を目指します。	2通	60	4	○	△	○	○						
37	○		卒業課題	ディプロマポリシーを基盤として2年間で習得した知識やスキルを振り返ることを行います。その学びの集大成としての課題を目に見える形で作り上げることを目標とします	2後	90	3			○	○	○	○				
合計						38	科目	1860 単位 (単位時間)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ・必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価の科目がないこと ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること ・学納金の未納がない事		1学年の学期区分	2期
履修方法： ・必修科目は全て履修を行い、選択科目は対象科目から選択とする		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校		平成20年3月21日		牧田 行雄		〒 420-0822 (住所) 静岡県静岡市葵区宮前町110-11 (電話) 054-267-6330																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-202-2490																															
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
文化・教養	専門課程(文化・教養)	観光・ホテルプライダル科 観光ビジネスコース		平成21(2009)年度	-	平成28(2016)年度																															
学科の目的	観光・交通・宿泊などの専門知識をベースに、魅力ある旅行の企画力や提案力・コーディネート力を身に付け、国家資格である旅行業務取扱管理者資格を取得するとともに、海外旅行先や訪日旅行者とのコミュニケーションにおける英語力も習得し、観光・旅行業界への就職を目指すことを目的とする。																																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【取得可能な資格】国内旅行業務取扱管理者、世界旅行地理検定初級、日本旅行地理検定初級、アマテウスシステム検定Specialist、TOEIC Listening&Reading Test、実用英語技能検定、サービス接遇検定試験準1級、日本語検定3級、ビジネス実務マナー検定試験2級、ビジネス文書検定試験2級、Powerpointプレゼンテーション技能認定試験初級、Excel表計算処理技能認定試験3級 ・中途退学率:0%(令和5年度)																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,860 単位時間	840 単位時間	300 単位時間	240 単位時間	0 単位時間	480 単位時間																													
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																	
60人	12人	0人		0%																																	
就職等の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■卒業者数(C) : 6人</li> <li>■就職希望者数(D) : 6人</li> <li>■就職者数(E) : 6人</li> <li>■地元就職者数(F) : 1人</li> <li>■就職率(E/D) : 100%</li> <li>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 17%</li> <li>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100%</li> <li>■進学者数 : 0人</li> <li>■その他</li> </ul> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) ・旅行業界、鉄道業界</li> </ul>																																				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無																																
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.s-air.ac.jp/course/com_02business/">https://www.s-air.ac.jp/course/com_02business/</a>																																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,860 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,860 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>4 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>16 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位</td></tr> </table>									総授業時数	1,860 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,860 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	4 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	16 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位	うち必修授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位
総授業時数	1,860 単位時間																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																				
うち必修授業時数	1,860 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	4 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	16 単位時間																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																				
総授業時数	0 単位																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位																																				
うち必修授業時数	0 単位																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位																																				
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>5人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>5人</p>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	4人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計		5人										
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																			
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	4人																																			
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																			
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																			
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																			
計		5人																																			

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

全国旅行業協会主催の国内旅行業務取扱管理者の取得に必要な教育時間を基に、観光業界または旅行業界において必要な技能・知識等の企業ニーズを取り入れるために教育課程編成委員会を開催し、業界関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間を編成している。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、カリキュラムおよびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

業界や企業のニーズ・意見を教育に反映させるため、学校組織内における教育課程編成委員会の位置づけを「静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校、教育課程編成委員会の位置づけに係わる規則」として規定している。またその運営も「静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校委員会等の規則」として規定しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制となっている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年2月1日現在

名前	所属	任期	種別
上田 和佳	公益社団法人 静岡県観光協会 事業統括ディレクター	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	①
村山 弘之	株式会社JTB静岡支店 副支店長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	③
牧田 行雄	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 校長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—
立石 公平	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 教務課長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—
草場 美奈子	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 学科長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—
白鳥 佑弥	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 教員	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 2023年7月27日(火)9:30～10:30

第2回 2024年2月28日(水)9:30～10:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

一般的な旅行の「出ていく」だけではなく「着地型」「地方創生」の知識も習得し、トータルで観光の力をつけて「各市町の課題解決ができる人材」の育成ができると「総合観光サービス」として地域貢献に繋がるとのご意見をいただき、「地方創生」についての授業に取り組んだ。また新たなカリキュラムにも必修科目として導入をする。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

指導・評価していただく企業は、地域に密着した旅行会社で、学生がツアープランを考える際に、具体例を交えてわかりやすく指導していただける担当者がある会社を選定した。また、専門書には載っていない実践的な話も踏まえながら、ツアープランの面白さ・奥深さ・難しさを伝えていただける企業風土を持っていることも考慮した。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

当科目はコース担当教員と企業との連携講義によって行う。連携企業は月1回のペースで当科目の講義を実施し、不在の間は担当教員が企業との相談の上で講義や準備を実施する。重要部分の確認として担当者様から内容の評価と改善方法を直接教授いただき、次のステップへとつなげてプレゼンテーション後に学生毎の総合評価を付ける。この評価を基に教員がこの科目の評価を学生に付ける。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
ツアープランニング基礎	ツアープランの作成の基礎として、旅行観光プランを作成し、自分たちで行くことを目的とする。業界の現状の講義からはじまり、プランのポイント、決定地域における観光ポイントなどを解説、プランの作成を行う。	名鉄観光サービス株式会社
ツアープランニング演習	ツアープランニング基礎と座学・演習を通して学んだ知識を活かし、国際交流科の日本文化研修を企画、実施を行う。ヒアリング、打合せ、説明会、添乗、清算まで、旅行の一連の流れを実施する。	名鉄観光サービス株式会社

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修担当を配置し、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図る為に「教職員研修」を企業及び研究機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	添乗業務研修	連携企業等:	株式会社阪急トラベルサポート
期間:	令和5年10月26日(木)、28日(土)、29日(日)	対象:	観光ビジネスコース教員
内容	①座席、部屋割り、施設確認等の事前準備②京都・日本海方面1泊2日添乗(新幹線、バス、食事、宿泊等)		

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	人を励ます話し方「ペップトーク」	連携企業等:	(株)ウチダ人材開発センタ
期間:	令和6年1月5日(金)	対象:	全教員
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ペップトーク」の考え方を学び、理解し実践できるようにする。</li> <li>・授業や会議での発言をポジティブに変換することにより建設的な話し合いができるようにする。</li> <li>・何故ハラスメント(パワハラ・アカハラ)になるのか。</li> <li>・心に寄り添う真の意味でのポジティブ語とは。</li> </ul>		

研修名:	今を生きる若者の背景と価値観	連携企業等:	株式会社博報堂
期間:	令和6年1月9日(火)	対象:	全教員
内容	現代の若者の価値観や思考、行動の変容を知る		

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	観光・旅行業界ブラッシュアップ研修	連携企業等:	旅行会社
期間:	令和6年10月	対象:	観光ビジネスコース教員
内容	業界の現状における最新の業務、課題を知る。また、業務専門知識のブラッシュアップ。		

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	未定	連携企業等:	未定
期間:	令和7年1月	対象:	全教員
内容	教員指導力向上のための研修		

### 4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1) 学校関係者評価の基本方針

本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として運営している。

#### (2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	○教育理念並びに教育目標が明確に示されているか
(2) 学校運営	○教職員の能力、業務内容の評価を定期的に行っているか
(3) 教育活動	○シラバスが作成され学生に配布されているか
(4) 学修成果	○就職率の向上が図られているか

(5) 学生支援	○進路・就職に関する支援体制は整備されているか
(6) 教育環境	○講義室、実習室の管理は適切に行われているか
(7) 学生の受入れ募集	○入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか
(8) 財務	○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
(9) 法令等の遵守	○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
(10) 社会貢献・地域貢献	○学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている
(11) 国際交流	○留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会後に意見を取り纏め、学校としての対応を決定。1年間を通して改善に努め、次回の委員会時に改善を報告する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
大石 斉	矢崎総業株式会社	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
八太 健一郎	株式会社フジドリームエアラインズ	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
井澤 友行	株式会社センチュリーアンドカンパニー	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
増崎 陽介	株式会社 ANACargo	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
内野 龍樹	株式会社安心堂	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
平岩 美貴代	株式会社ドリームスカイ名古屋	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
関 理恵	ANAエアポートサービス株式会社	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
村山 弘之	株式会社JTB	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
澁谷 妙子	株式会社ジェイアール東海ホテルズ ホテルアソシア静岡	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
塚本 裕作	卒業生(同窓会会長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生
高橋 美江	在校生保護者(後援会会長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	在校生の 保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/>

公表時期: 令和6年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動及び学校運営についての理解を求め、企業等の関係者との連携及び協力の推進に資するため、詳細について「学校評価報告書」と「学校情報」をホームページ上で公開している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	入学者数、学修時間数、取得可能資格、卒業者数、主な就職先
(3) 教職員	教職員数、組織、研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8) 学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣状況
(11) その他	その他の教育活動(附帯事業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/>

公表時期: 令和6年6月30日

授業科目等の概要

(専門課程 (文化・教養) 観光・ホテルブライダル科観光ビジネスコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		コミュニケーションサポート I	入学式、始業式、終業式など学内の各種行事を実施するための科目です。集団行動や活動を通してコミュニケーション力の向上を図ります。	1通	30	1			○	○	○	○		
2	○		立居振舞い	社会に出る前の準備として、立ち居振る舞いと自己表現力の強化を図ります。所作、表現力、話す力等、就職活動の基本を学び習得することを目標とします。	1後	30	1			○	○		○		
3	○		キャリアサポート I	就職活動開始までに、必要な基本スキルの習得を目標とします。目指す業界を決め、スムーズなスタートを切るため、各種情報の集め方や筆記試験対策、業界セミナー等を行います。	1通	90	6	○	△		○				○
4	○		I C T リテラシー I	プレゼンテーション、文章作成、表計算など、パソコン基本ソフトを実技レベルで学習します。また、Microsoft365のクラウドサービスを活用し、通信技術利用のコミュニケーションスキルを磨きます。	1通	60	2			○	○		○	○	
5	○		英会話 I	6段階のレベル別クラス編成で、自分自身について英語で表現できることを目標とします。一人ひとりが考えと意見を持つことを重視し、タスクベースのアクティビティを行います。	1通	60	2			○	○		○	○	
6	○		英語検定 I	6クラス編成によりそれぞれが目指す級、及びスコアの早期取得を目標とします。総合的な英語力育成のため、講義と併せアウトプットの活動も並行して行います。	1通	120	8	○	△		○			○	○
7	○		マナー・接遇 I	社会人としてのマナーや接客対応の考え方を学び必要な資質を身につける事を目標とします。また、サービス接遇検定や日本語検定取得をめざして検定対策授業も行います。	1通	90	3			○	△	○		○	○
8	○		ボイストレーニング I	自分の声を知り、声のコントロール法を習得することを目標とします。発声・呼吸・滑舌を軸に自分の声を自覚し、磨き鍛える学習をします。	1通	30	1			○	○				○
9	○		イメージアップ I	清潔感のある身だしなみを基本として、ヘアメイク・スキンケア等、メイクの基本を学びます。セルフブランディングに基づき業界に応じたイメージアップを目標とします。	1通	30	1			○	○			○	○
10	○		第二外国語 I	英語以外の外国語として、中国語または韓国語を選択し、文字や発音などの基礎から学習します。将来の職業を想定し、接客に活かせる会話文を実践的に習得することを目標とします。	1通	60	4	○	△		○				○
11	○		国内運賃料金業務	JR各社における運賃・料金計算手法の習得を目標とします。割引の種類、団体計算手法や貸切バス・フェリー、国内航空運賃の種類についても学習します。	1通	30	2	○			○			○	

12	○		国内観光地理	日本国内における観光資源の知識習得を目標とします。所在地・プロフィール・温泉・祭・名産品など、観光資源全般について学習します。	1通	30	2	○		○										
13	○		旅行業務基礎	旅行パンフレット記載事項の読解力習得を目標とします。移動手段や宿泊施設、部屋や食事タイプなど、様々な選択肢からお客様の求める旅行商品を的確に提案する方法を学びます。	1通	30	2	○		○										
14	○		航空予約基礎	国内航空運賃・料金の基礎知識を習得し、国内旅行業務取扱管理者試験に挑戦します。また、航空予約演習の基礎知識として、世界の空港・航空会社コードなど、システム操作に必須の知識も学習します。	1通	30	1	△		○	○									
15	○		ツアープランニング基礎	国内研修を活用し『出かけてみる、見てみる、体験してみる』を目的とします。行程の作成や移動手段を調べ、実際に案内も受け持ちます。その中で企画の成り立ちを学習します。	1前	30	2	○		△	○									
16	○		旅行業法規	旅行業法と旅行業約款と旅行業でのルールについて学習し、国内旅行業務取扱管理者試験に挑戦します。	1通	30	2	○			○									
17	○		世界遺産知識	海外観光資源の基礎として、特に有名な世界遺産についての知識習得を目標とします。基本的な世界遺産を学習したのち、世界遺産検定3級にもチャレンジします。	1後	30	2	○			○									
18	○		海外渡航基礎	海外渡航・海外添乗業務の基礎知識習得を目標とします。海外渡航における基本的な流れと知識（都市名、都市コード、航空会社コード、入出国、時差など）を学習します。	1後	30	2	○			○									
19	○		添乗業務演習	添乗業務の基本的な流れや知識を学び1年次に実施される海外研修を実践の場とし、添乗員として参加学生向けに海外渡航の魅力や注意点等を説明できることを目標とします。	1後	30	1	△			○	○	○	○						
20	○		海外研修	海外渡航の経験はもちろんのこと語学研修やアクティビティを通して、英語・外国語を実践しながら国際感覚を身につけ、異文化を体験・理解することを目的とします。	1後	60	2				○		○	○						
21	○		コミュニケーションサポートⅡ	学内の各種行事を実施するための科目です。集団行動や活動を通して多くの交流をもつことを目的とします。また、観光分野知識として、国内外の観光地理の基礎も学習します。	2通	30	1				○	○	○	○						
22	○		キャリアサポートⅡ	目指す業界への就職内定と、就職後必要となる社会的知識の習得を目標とします。社会に出るための事前準備として、知識を広げることが目的とした教養講座を行います。	2通	60	2				○		○							
23	○		ICTリテラシーⅡ	パソコンの幅広い活用方法習得を目的とし、Excel検定への挑戦やWordを利用したレポート作成を行います。また、昨今の情報化社会には欠かせない知識として、セキュリティやモラル、個人情報や著作権についても学習します。	2通	60	2				○	○		○	○					
24	○		英会話Ⅱ	1年次の応用として、より高度な語彙を使い、会話の展開が出来る力の育成を目標とします。毎授業、異なったテーマでそれに基づいた会話の実践をペア・グループワークで学びます。	2通	60	2				○	○		○	○					

25	○		英語検定Ⅱ	6クラス編成によりそれぞれが目指す級、及びスコアの取得と更新を目標とします。出題傾向を掴み、英語の運用能力を身に付けるため、4技能を意識した反復練習を行います。	2通	120	8	○	△	○	○	○
26	○		マナー・接客Ⅱ	社会人としてのマナーや接客時に心掛けなければならないことを引き続き学習します。資格としてビジネス実務マナー検定や文書検定、サービス接客検定の上級合格を目標とします。	2通	90	3	○		○	○	○
27	○		ボイストレーニングⅡ	的確に声のコントロールが出来ることを目標とします。1年次に習得したことを強化し、応用編として好感が持てる声を目指してトレーニングを行います。	2通	30	1			○	○	○
28	○		イメージアップⅡ	1年次に引き続き、全身のイメージアップを目標に色彩（カラーコーディネート）を学び、自身を更に輝かせるためのブラッシュアップを行います。	2前	30	1			○	○	○
29	○		第二外国語Ⅱ	1年次に引き続き、中国語または韓国語を選択し、接客のあらゆる場面で使われる会話をロールプレイ形式で学習します。応用力を深め、即戦力として使えることを目標とします。	2通	60	4	○	△		○	○
30	○		海外観光地理	海外旅行における観光地の知識習得を目標とします。所在地・歴史・祭・名産品など、観光資源全般について学習し、世界旅行地理検定の取得にも挑戦します。	2通	30	2	○			○	○
31	○		海外実務総合	海外渡航時に必要な知識習得を目標とします。時差に始まり旅券申請に必要な知識、国際航空約款・運賃規則の見方、免税などを学習します。	2通	60	4	○			○	○
32	○		旅行業ICT基礎	旅行業務のICT化が進む中、機器の利用や、WEB販売における手順等について学習します。遠隔での接客対応方法についてもロールプレイを含め学習します。	2通	30	2	○	△	○		○
33	○		旅行業務応用	接客対応と旅行パンフレット読解応用力の習得を目標とします。実際の旅行会社カウンターを想定したロールプレイングを通して、お客様対応や提案方法を実践的に学習します。	2通	60	4	○	△	○		○
34	○		航空予約演習	国際航空予約システム(Amadeus)の予約業務スキル習得を目標とします。都市・航空会社情報、空席照会、PNR作成などを実際の操作を通して学び、アマデウスシステム検定Specialist合格を目指します。	2通	30	1			○	○	○
35	○		ツアープランニング演習	テーマに応じた旅行企画力の習得を目標としています。個人旅行の行程・見積作成演習を通して時間管理について学習します。また国際交流料の団体日帰り研修旅行も企画・実施します。	2通	60	2	○			○	○
36	○		観光資源探究	地元静岡の新たな観光素材を発掘し、魅力ある観光情報の発信スキルも習得します。また、マイクロツーリズムへの理解を深め、実際に旅行プランの企画と実施をします。	2後	30	1	△		○	○	○
37	○		卒業課題	ディプロマポリシーを基盤として2年間で習得した知識やスキルを振り返ることを行います。その学びの集大成としての課題を目に見える形で作り上げることを目標とします	2後	90	3			○	○	○
合計						37 科目		1860 単位（単位時間）				

卒業要件及び履修方法

授業期間等



卒業要件： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価の科目がないこと</li> <li>・ 総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること</li> <li>・ 学納金の未納がない事</li> </ul>	1 学年の学期区分	2 期
履修方法： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修科目は全て履修を行い、選択科目は対象科目から選択とする</li> </ul>	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校		平成20年3月21日		牧田 行雄		〒 420-0822 (住所) 静岡県静岡市葵区宮前町110-11 (電話) 054-267-6330																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-202-2490																															
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
文化・教養	専門課程(文化・教養)	観光・ホテルブライダル科 ホテル・ブライダルコース		平成21(2009)年度	-	平成28(2016)年度																															
学科の目的	ホテルおよびブライダル関連の幅広い知識とサービス技能を身に付け、ホテルビジネス実務検定試験やレストランサービス技能検定、ブライダルコーディネーター技能検定等の資格を取得するとともに、外国人のお客様とのコミュニケーションに必要な実践的英語力も習得し、県内外のホテルやブライダル専門施設への就職を目的とする。																																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【取得可能な資格】ホテルビジネス実務検定試験ベーシックレベル2級、レストランサービス技能検定3級、ブライダルコーディネーター技能検定3級、TOEIC Listening & Reading Test、実用英語技能検定、サービス接客検定試験準1級、日本語検定3級、ビジネス実務マナー検定試験2級、ビジネス文書検定試験2級、Powerpointプレゼンテーション技能認定試験初級、Excel表計算処理技能認定試験3級・中途退学率:5.3%(令和5年度)																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,860 単位時間 単位	630 単位時間 単位	360 単位時間 単位	120 単位時間 単位	0 単位時間 単位	750 単位時間 単位																													
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																	
60人	89人	0人		0%																																	
就職等の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■卒業者数(C) : 36人</li> <li>■就職希望者数(D) : 36人</li> <li>■就職者数(E) : 36人</li> <li>■地元就職者数(F) : 8人</li> <li>■就職率(E/D) : 100%</li> <li>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 22%</li> <li>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100%</li> <li>■進学者数 : 0人</li> <li>■その他</li> </ul> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) ・ホテル業界、ブライダル業界</p>																																				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無																																
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.s-air.ac.jp/course/com_02business/">https://www.s-air.ac.jp/course/com_02business/</a>																																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,860 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,860 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>6 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>4 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位</td></tr> </table>									総授業時数	1,860 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,860 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	6 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	4 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位	うち必修授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位
総授業時数	1,860 単位時間																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																				
うち必修授業時数	1,860 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	6 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	4 単位時間																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																				
総授業時数	0 単位																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位																																				
うち必修授業時数	0 単位																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位																																				
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>5人</p>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	4人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計	5人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																				
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	4人																																				
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																				
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																				
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																				
計	5人																																				

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ホテル・ブライダル業界において必要な技能・知識等を取り入れるために、教育課程編成委員会を開催。業界関係者の意見を踏まえ、授業科目および授業時間を編成している。教育内容は業界のニーズを基に常に見直し、カリキュラムおよびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

業界や企業のニーズ・意見を教育に反映させるため、学校組織内における教育課程編成委員会の位置づけを「静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校、教育課程編成委員会の位置づけに係わる規則」として規定している。またその運営も「静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校委員会等の規則」として規定しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制となっている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年2月1日現在

名前	所属	任期	種別
上田 和佳	公益社団法人 静岡県観光協会 事業統括ディレクター	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	①
澁谷 妙子	株式会社ジェイアール東海ホテルズ ホテルアソシア静岡 総支配人室	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	③
牧田 行雄	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 校長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—
立石 公平	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 教務課長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—
草場 美奈子	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 学科長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—
青柳 宗宏	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 教員	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 2023年7月27日(木)11:00～12:00

第2回 2024年2月28日(水)11:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

コロナ禍を過ごしてきた学生のコミュニケーション能力、対応能力の低下に対し、現カリキュラムの中のこういった部分でそこを指導していくことができるのかを具体的に示していくようアドバイスをいただいた。それに対し、実技、実習等の授業の中で、グループで考え行動し、実践するオペレーションを取り入れ、内容をブラッシュアップしている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

現場でオペレーションを担当しているスタッフを講師として招き、入社後に現場ですぐに使える知識と技術を身につけることを基本とする。また、業務内容解説・それに沿ったロールプレイング等を行い、専門書には載っていない実践的な話も踏まえながらホテル・ブライダル業界で働く魅力を伝えていく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学内もしくはホテルの現場で授業を実施する。ブライダル部門や宴会部門、料飲部門や宿泊部門など各部門の方々より、講義および実習形式で実施いただく。評価は企業担当者が連携授業に係る箇所について100点満点で行い、その他の授業は専任教員の試験により評価、各評価を合算して最終評価とする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
ホテル概論	ホテルにて宿泊、料飲、宴会、ブライダル等様々な現場でオペレーションを担当しているスタッフから、実習、演習を行っていただくことで、勉強してきた学びを現場業務につなげて、より深く理解できるようになることを目的とする。	株式会社日本平ホテル
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教員研修担当を配置し、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図る為に「教職員研修」を企業及び研究機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 料飲研修		連携企業等: ハイアットリージェンシー 東京
期間: 3月6日(水)		対象: ホテル・ブライダルコース教員
内容: ①バーテンダー業務の基本②カクテルの作り方		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 人を励ます話し方「ペップトーク」		連携企業等: (株)ウチダ人材開発センタ
期間: 令和6年1月5日(金)		対象: 全教員
内容: 「ペップトーク」の考え方を学び、理解し実践できるようにする。 ・授業や会議での発言をポジティブに変換することにより建設的な話し合いができるようにする。 ・何故ハラスメント(パワハラ・アカハラ)になるのか。 ・心に寄り添う真の意味でのポジティブ語とは。		
研修名: 今を生きる若者の背景と価値観		連携企業等: 株式会社博報堂
期間: 令和6年1月9日(火)		対象: 全教員
内容: 現代の若者の価値観や思考、行動の変容を知る		
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: ホテル・ブライダル研修		連携企業等: ホテル・ブライダル施設
期間: 令和7年3月		対象: ホテル・ブライダルコース教員
内容: 専門科目で授業展開できるための最新の業界情報、スキル、知識等のブラッシュアップ		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 未定		連携企業等: 未定
期間: 令和7年1月		対象: 全教員
内容: 教員指導力向上のための研修		
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係		
(1) 学校関係者評価の基本方針 本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として運営している。		
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応		
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	
(1) 教育理念・目標	○教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	
(2) 学校運営	○教職員の能力、業務内容の評価を定期的に行っているか	
(3) 教育活動	○シラバスが作成され学生に配布されているか	
(4) 学修成果	○就職率の向上が図られているか	
(5) 学生支援	○進路・就職に関する支援体制は整備されているか	
(6) 教育環境	○講義室、実習室の管理は適切に行われているか	
(7) 学生の受入れ募集	○入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	
(8) 財務	○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	

(9)法令等の遵守	○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
(10)社会貢献・地域貢献	○学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている
(11)国際交流	○留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会後に意見を取り纏め、学校としての対応を決定。1年間を通して改善に努め、次回の委員会時に改善を報告する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
大石 斉	矢崎総業株式会社	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
八太 健一郎	株式会社フジドリームエアラインズ	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
井澤 友行	株式会社センチュリーアンドカンパニー	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
増崎 陽介	株式会社 ANACargo	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
内野 龍樹	株式会社安心堂	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
平岩 美貴代	株式会社ドリームスカイ名古屋	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
関 理恵	ANAエアポートサービス株式会社	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
村山 弘之	株式会社JTB	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
澁谷 妙子	株式会社ジェイアール東海ホテルズ ホテルアソシア静岡	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
塚本 裕作	卒業生(同窓会会長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生
高橋 美江	在校生保護者(後援会会長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	在校生の 保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/>

公表時期: 令和6年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動及び学校運営についての理解を求め、企業等の関係者との連携及び協力の推進に資するため、詳細について「学校評価報告書」と「学校情報」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	入学者数、学修時間数、取得可能資格、卒業者数、主な就職先
(3)教職員	教職員数、組織、研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6)学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8)学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣状況
(11)その他	その他の教育活動(附帯事業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/>

公表時期: 令和6年6月30日

授業科目等の概要

(専門課程 (文化・教養) 観光・ホテルブライダル科ホテル・ブライダルコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○			コミュニケーションサポート I	入学式、始業式、終業式など学内の各種行事を実施するための科目です。集団行動や活動を通してコミュニケーション力の向上を図ります。	1通	30	1			○	○	○	○	
2	○			立居振舞い	社会に出る前の準備として、立ち居振る舞いと自己表現力の強化を図ります。所作、表現力、話す力等、就職活動の基本を学び習得することを目標とします。	1後	30	1			○	○		○	
3	○			キャリアサポート I	就職活動開始までに、必要な基本スキルの習得を目標とします。目指す業界を決め、スムーズなスタートを切るため、各種情報の集め方や筆記試験対策、業界セミナー等を行います。	1通	90	6	○	△		○			○
4	○			I C T リテラシー I	プレゼンテーション、文章作成、表計算など、パソコン基本ソフトを実技レベルで学習します。また、Microsoft365のクラウドサービスを活用し、通信技術利用のコミュニケーションスキルを磨きます。	1通	60	2			○	○		○	○
5	○			英 会 話 I	6段階のレベル別クラス編成で、自分自身について英語で表現できることを目標とします。一人ひとりが考えと意見を持つことを重視し、タスクベースのアクティビティを行います。	1通	60	2			○	○		○	○
6	○			英 語 検 定 I	6クラス編成によりそれぞれが目指す級、及びスコアの早期取得を目標とします。総合的な英語力育成のため、講義と併せアウトプットの活動も並行して行います。	1通	120	8	○	△		○		○	○
7	○			マ ナ ー ・ 接 遇 I	社会人としてのマナーや接客対応の考え方を学び必要な資質を身につける事を目標とします。また、サービス接客検定や日本語検定取得をめざして検定対策授業も行います。	1通	90	3			○	△	○		○
8	○			ボイストレーニング I	自分の声を知り、声のコントロール法を習得することを目標とします。発声・呼吸・滑舌を軸に自分の声を自覚し、磨き鍛える学習をします。	1通	30	1			○	○			○
9	○			イメ ー ジ ア ッ プ I	清潔感のある身だしなみを基本として、ヘアメイク・スキンケア等、メイクの基本を学びます。セルフブランディングに基づき業界に応じたイメージアップを目標とします。	1通	30	1			○	○		○	○
10	○			第 二 外 国 語 I	英語以外の外国語として、中国語または韓国語を選択し、文字や発音などの基礎から学習します。将来の職業を想定し、接客に活かせる会話文を実践的に習得することを目標とします。	1通	60	4	○	△		○			○
11	○			ホ テ ル 概 論	ホテル業界を体系的に理解することを目標とします。知識の基礎を築くため、業界の歴史やホテル名、職種ごとの業務などを順序良く学び、ホテルビジネス実務検定試験にも挑戦します。	1通	30	2	○		△	○	○	○	○

12	○		料飲・宴会サービス実務Ⅰ	フルコース料理のサービス技能とサービス英会話の習得を目標とします。カトラリーやテーブルの名前、テーブルセッティングの方法などを実践で学び、確実に実力をつけていきます。	1通	60	2			○	○	○							
13	○		ホテル宿泊実務	宿泊業務に携わる仕事の業務理解と技能習得を目標とします。ドア、ベル、フロントなどの接客をロールプレイング形式で学ぶことにより、ホテルスタッフとしての対応力も身に付けます。	1後	30	1			○	○	○							
14	○		ブライダル概論Ⅰ	プランナーをはじめ、ブライダル業界の仕事や業務理解を目標とします。また、挙式・披露宴の成り立ちを知るために、式のスタイルやペーパーアイテム、衣装知識まで幅広く学びます。	1通	30	2	○			○	○							
15	○		ブライダル実務	ブライダルプランナーの接客業務を実演できることを目標とします。新規接客から当日までの打合せ業務をロールプレイング形式で実践することにより幅広い提案力を身に付けます。	1後	30	1			○	○	○							
16	○		テーブルコーディネート	テーマごとのテーブルコーディネートを考え、セッティングできることを目標とします。感性を磨くため、色彩の知識や季節のコーディネートを作るなど、実践を交え学んでいきます。	1通	30	1		○		○								○
17	○		フローリスト技術	季節の花や装花の知識、装花制作スキルの習得を目標とします。技術の基本を身に付けるため、花の素材や道具、生花の取り扱いなども学び、実際に装花のデザイン・制作も行います。	1通	30	1			○	○								○
18	○		ホテル・ブライダルキャリアビジョン	自身のキャリアプランを描き、夢実現のための準備をすることが目標です。ホテル・ブライダル業界に特化したサポートを行い、入社3年後、5年後、10年後をイメージしていきます。	1後	30	1		○		○	○							
19	○		海外研修	海外渡航の経験はもちろんのこと語学研修やアクティビティを通して、英語・外国語を実践しながら国際感覚を身につけ、異文化を体験・理解することを目的とします。	1後	60	2			○		○	○						
20	○		コミュニケーションサポートⅡ	学内の各種行事を実施するための科目です。集団行動や活動を通して多くの交流をもつことを目的とします。また、観光分野知識として、国内外の観光地理の基礎も学習します。	2通	30	1			○	○	○	○						
21	○		キャリアサポートⅡ	目指す業界への就職内定と、就職後必要となる社会的知識の習得を目標とします。社会に出るための事前準備として、知識を広げることが目的とした教養講座を行います。	2通	60	2		○		○	○							
22	○		I C T リテラシーⅡ	パソコンの幅広い活用方法習得を目的とし、Excel検定への挑戦やWordを利用したレポート作成を行います。また、昨今の情報化社会には欠かせない知識として、セキュリティやモラル、個人情報や著作権についても学習します。	2通	60	2			○	○	○	○						
23	○		英会話Ⅱ	1年次の応用として、より高度な語彙を使い、会話の展開が出来る力の育成を目標とします。毎授業、異なったテーマでそれに基づいた会話の実践をペア・グループワークで学びます。	2通	60	2			○	○	○	○						
24	○		英語検定Ⅱ	6クラス編成によりそれぞれが目指す級、及びスコアの取得と更新を目標とします。出題傾向を掴み、英語の運用能力を身に付けるため、4技能を意識した反復練習を行います。	2通	120	8	○	△		○	○	○						

25	○		マナー・接遇Ⅱ	社会人としてのマナーや接客時に心掛けなければならぬことを引き続き学習します。資格としてビジネス実務マナー検定や文書検定、サービス接遇検定の上級合格を目標とします。	2通	90	3		○	○	○	○		
26	○		ボイストレーニングⅡ	的確に声のコントロールが出来ることを目標とします。1年次に習得したことを強化し、応用編として好感が持てる声を目指してトレーニングを行います。	2通	30	1		○	○			○	
27	○		イメージアップⅡ	1年次に引き続き、全身のイメージアップを目標に色彩（カラーコーディネート）を学び、自身を更に輝かせるためのブラッシュアップを行います。	2前	30	1		○	○			○	○
28	○		第二外国語Ⅱ	1年次に引き続き、中国語または韓国語を選択し、接客のあらゆる場面で使われる会話をロールプレイ形式で学習します。応用力を深め、即戦力として使えることを目標とします。	2通	60	4	○	△		○			○
29	○		食文化とレストラン	レストランサービス技能検定学科試験の合格を目標とします。レストランサービスに必要な食文化や食材、ワイン、チーズなど幅広い知識を学びます。	2通	60	4	○	△		○			○
30	○		料飲・宴会サービス実務Ⅱ	1年次に身に付けた基本スキルを更に発展させることを目標とします。バーやレストランにおけるカクテルのレシピや作り方、宴会場での飲料の準備など、応用のサービス技術を実践を通して学びます。	2通	30	1		△	○	○			○
31	○		バンケットオペレーション	個人スキルだけでなく、チームとしてのオペレーション力や全体を見渡し把握する力を磨くことを目的とします。チームを組み、バンケット（宴会）や婚礼、レストランのオペレーションを実際に行います。	2前	30	1		△	○	○			○
32	○		レストランサービス実務	1年次に身に付けた技能をもとに、お客様に合わせたサービスの習得を目標とします。オーダーテイクを交えロールプレイングを行い、レストランサービス技能検定実技試験に臨みます。	2通	60	2			○	○			○
33	○		ホテルマネジメント	ホテルをビジネスとしてとらえる視点を養うことを目標とします。接客部門以外の仕事も学び、ホテルについて一層の理解を深めます。またホテルの運営にも触れていきます。	2前	30	2	○	△		○			○
34	○		プロトコール	国際儀礼を学び、賓客接遇の基本を身に付けることを目標とします。テーブル席次や国旗の取り扱い、呼称、敬称等、数多くある国家間の取り決めを学びます。	2後	30	2	○	△		○			○
35	○		ブライダル概論Ⅱ	1年次の基礎を応用し、自身でテーマ設定、プランニングができることを目標とし、完成後は発表を行います。また学習の成果として、実際の会場で模擬ブライダルを実施します。	2通	30	1		○		○	○		○
36	○		ブライダルコーディネート	1年次に学んだ基礎を活かし、ブライダルのコーディネート技術の習得を目標とします。集大成としての模擬ブライダルでは、コーディネートやアイテムの作成なども行います。	2後	30	1		○		○	○		○
37	○		卒業課題	ディプロマポリシーを基盤として2年間で習得した知識やスキルを振り返ることを行います。その学びの集大成としての課題を目に見える形で作り上げることを目標とします	2後	90	3			○	○	○		○
合計						37 科目		1860 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法

授業期間等



卒業要件： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価の科目がないこと</li> <li>・ 総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること</li> <li>・ 学納金の未納がない事</li> </ul>	1 学年の学期区分	2 期
履修方法： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修科目は全て履修を行い、選択科目は対象科目から選択とする</li> </ul>	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校		平成20年3月21日		牧田 行雄		〒 420-0822 (住所) 静岡県静岡市葵区宮前町110-11 (電話) 054-267-6330																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-202-2490																															
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
文化・教養	専門課程(文化・教養)	国際コミュニケーション科 ランゲージコース		平成21(2009)年度	-	平成29(2017)年度																															
学科の目的	世界を舞台に、発揮できるコミュニケーション能力を身につけるため、「グローバル意識」「論理的発話力」「自他国の比較を通じた異文化理解力」の習得を通じ、語学力を強みとした多岐にわたる業界で活躍できる人材の育成を目的とする。																																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【取得可能な資格】TOEIC Listening&Reading Test、TOEIC Speaking Test、実用英語技能検定、日商ビジネス英語検定、観光英語検定試験3級、日本語検定3級サービス接遇検定試験1級、ビジネス実務マナー検定試験2級、ビジネス文書検定試験2級、Powerpointプレゼンテーション技能認定試験初級、Excel表計算処理技能認定試験3級・中途退学率:2.4%(令和5年度)																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,860 単位時間 単位	510 単位時間 単位	570 単位時間 単位	180 単位時間 単位	0 単位時間 単位	600 単位時間 単位																													
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																	
60人	23人	0人		0%																																	
就職等の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■卒業者数(C) : 26人</li> <li>■就職希望者数(D) : 21人</li> <li>■就職者数(E) : 21人</li> <li>■地元就職者数(F) : 9人</li> <li>■就職率(E/D) : 100%</li> <li>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 43%</li> <li>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 81%</li> <li>■進学者数 : 0人</li> <li>■その他</li> </ul> <p>卒業者数と就職者数の差5名は、留学3名、自己就職2名となる。</p> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) ・航空業界、ホテル業界、物流業界、事務職等</p>																																				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無																																
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.s-air.ac.jp/course/com_02business/">https://www.s-air.ac.jp/course/com_02business/</a>																																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,860 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,860 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>4 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>6 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位</td></tr> </table>									総授業時数	1,860 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,860 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	4 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	6 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位	うち必修授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位
総授業時数	1,860 単位時間																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																				
うち必修授業時数	1,860 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	4 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	6 単位時間																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																				
総授業時数	0 単位																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位																																				
うち必修授業時数	0 単位																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位																																				
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>4人</p>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計		4人										
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																			
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3人																																			
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																			
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																			
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																			
計		4人																																			

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

グローバル人材としての視点の育成を柱に、「世界の中の日本人」として必要な、技能・知識・素養等の企業ニーズ把握を目的に教育課程編成委員会を開催し、関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間を編成している。また、教育内容については業界の潮流に齟齬が出ない様常に見直し、カリキュラムおよびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

業界や企業のニーズ・意見を教育に反映させるため、学校組織内における教育課程編成委員会の位置づけを「静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校、教育課程編成委員会の位置づけに係わる規則」として規定している。またその運営も「静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校委員会等の規則」として規定しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制となっている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年2月1日現在

名前	所属	任期	種別
田崎 至教	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 広報室/テスト事業普及企画室/名古屋事業所チームリーダー	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	①
大石 斉	矢崎総業株式会社 ものづくり事業統括室 ものづくり企画統括部 主査	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	③
増崎 陽介	株式会社 ANACargo 総務人事部 人事課	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	③
牧田 行雄	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 校長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—
立石 公平	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 教務課長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—
関根 由美子	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 教員	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 2023年7月26日(水)13:30～14:30

第2回 2024年2月29日(木)13:30～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・今後のグローバル社会で必要となる「瞬発力」の醸成:毎日のHRでその場で担当とお題を決める1分間スピーチを導入。
- ・異文化理解力と自国文化理解力の醸成:「比較文化研究ⅠⅡ」及び連携授業内にて当該内容項目について強化。
- ・新カリキュラム実装に際し、運用能力を意識した教育の検討:連携企業にANA Cargo(株)を加え、より「職業」を意識した具体的な教育を行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

指導、評価をしていただく企業は世界最大の教育事業者で20か国50校の語学学校・キャンパスを有しており、年間100か国以上から学生を受け入れている。語学はもとより、異文化コミュニケーションにおける教育においても、ICTなど最先端のノウハウを有し、提供している。本校の学生がEF海外校に留学するにあたり、留学期間を最大限に有意義なものとするための事前学習を実施し、帰国後も留学で得た経験を職業に活かしていくための方法を、講義を通して学ぶ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本科目は、本校担当講師と、企業の講師との打ち合わせを行ったうえで授業を計画する。通常の授業では留学に向けての航空券予約、パスポート、海外保険等々事務的な準備を進めていき、連携授業では異文化で学ぶためのマインドセット、語学学習へのモチベーションなどのフォロー、事前の海外生活オリエンテーション、授業の模擬体験などを通し、留学への内面的な準備を進める。また、帰国後の「留学発表会」に向けて 帰国後にも連携授業を行い、留学のフィードバック、体験の共有、確認を行いそれらの体験を活かせるようにする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
海外生活研修	海外語学留学に向けての準備授業として、現地情報や実際の学校の様子などについて知り、多文化・多様性への理解を深める。留学を有意義なものとするに焦点を当て、事前のインプット学習、留学でのアウトプットがスムーズに行えるようマインドセットを行う。ディプロマポリシーに則り、語学、行動力、異文化理解力を養うための留学とすることを目標とする。	イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社
インフォメーション コーディネーター	ファッション、皮革製品、貴金属・宝飾品、時計、家具など国内外の「老舗」について、歴史と取り扱いの主力商品をテーマに取り上げる。また、お客様が求める情報を迅速且つ的確に提供するために、どのような準備をすれば良いか、また情報の有効な活用手法や伝え方について学び、個別最適型提案力の醸成と確立を目標とする。	株式会社安心堂

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修担当を配置し、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図る為に「教職員研修」を企業及び研究機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	グローバル人材育成に際した社内研修	連携企業等:	矢崎総業株式会社
期間:	令和6年3月27日(水)	対象:	ランゲージコース教員
内容:	①異文化理解の活用方法と社内教育について②各部門・部署の業務内容と必要スキルについて		

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	人を励ます話し方「ペップトーク」	連携企業等:	(株)ウチダ人材開発センタ
期間:	令和6年1月5日(金)	対象:	全教員
内容:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ペップトーク」の考え方を学び、理解し実践できるようにする。</li> <li>・授業や会議での発言をポジティブに変換することにより建設的な話し合いができるようにする。</li> <li>・何故ハラスメント(パワハラ・アカハラ)になるのか。</li> <li>・心に寄り添う真の意味でのポジティブ語とは。</li> </ul>		

研修名:	今を生きる若者の背景と価値観	連携企業等:	株式会社博報堂
期間:	令和6年1月9日(火)	対象:	全教員
内容:	現代の若者の価値観や思考、行動の変容を知る		

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	貨物、国際物流業界ブラッシュアップ研修	連携企業等:	物流会社等
期間:	令和7年3月	対象:	ランゲージコース教員
内容:	専門科目授業に取り入れるため、貨物、国際物流に係る最新の知識を学ぶ研修		

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	未定	連携企業等:	未定
期間:	令和7年1月	対象:	全教員
内容:	教員指導力向上のための研修		

### 4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。

また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1) 学校関係者評価の基本方針

本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として運営している。

#### (2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	○教育理念並びに教育目標が明確に示されているか
(2) 学校運営	○教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか
(3) 教育活動	○シラバスが作成され学生に配布されているか

(4)学修成果	○就職率の向上が図られているか
(5)学生支援	○進路・就職に関する支援体制は整備されているか
(6)教育環境	○講義室、実習室の管理は適切に行われているか
(7)学生の受入れ募集	○入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか
(8)財務	○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
(9)法令等の遵守	○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
(10)社会貢献・地域貢献	○学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている
(11)国際交流	○留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会後に意見を取り纏め、学校としての対応を決定。1年間を通して改善に努め、次回の委員会時に改善を報告する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
大石 斉	矢崎総業株式会社	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
八太 健一郎	株式会社フジドリームエアラインズ	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
井澤 友行	株式会社センチュリーアンドカンパニー	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
増崎 陽介	株式会社 ANACargo	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
内野 龍樹	株式会社安心堂	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
平岩 美貴代	株式会社ドリームスカイ名古屋	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
関 理恵	ANAエアポートサービス株式会社	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
村山 弘之	株式会社JTB	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
澁谷 妙子	株式会社ジェイアール東海ホテルズ ホテルアソシア静岡	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
塚本 裕作	卒業生(同窓会会長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生
高橋 美江	在校生保護者(後援会会長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	在校生の 保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/>

公表時期: 令和6年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動及び学校運営についての理解を求め、企業等の関係者との連携及び協力の推進に資するため、詳細について「学校評価報告書」と「学校情報」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	入学者数、学修時間数、取得可能資格、卒業者数、主な就職先
(3)教職員	教職員数、組織、研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6)学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8)学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣状況
(11)その他	その他の教育活動(附帯事業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/>

公表時期: 令和6年6月30日

授業科目等の概要

(専門課程 (文化・教養) 国際コミュニケーション科ランゲージコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
								講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択 必修	自由 選択													
1	○		コミュニケーション サポート I	入学式、始業式、終業式など学内の各種行事を実施するための科目です。集団行動や活動を通してコミュニケーション力の向上を図ります。	1通	30	1			○	○	○	○		
2	○		立居振舞い	社会に出る前の準備として、立ち居振る舞いと自己表現力の強化を図ります。所作、表現力、話す力等、就職活動の基本を学び習得することを目標とします。	1後	30	1			○	○		○		
3	○		キャリアサポート I	就職活動開始までに、必要な基本スキルの習得を目標とします。目指す業界を決め、スムーズなスタートを切るため、各種情報の集め方や筆記試験対策、業界セミナー等を行います。	1通	90	6	○	△		○			○	
4	○		IT リテラシー I	プレゼンテーション、文章作成、表計算など、パソコン基本ソフトを実技レベルで学習します。また、Microsoft365のクラウドサービスを活用し、通信技術利用のコミュニケーションスキルを磨きます。	1通	60	2			○	○				○
5	○		英会話 I	6段階のレベル別クラス編成で、自分自身について英語で表現できることを目標とします。一人ひとりが考えと意見を持つことを重視し、タスクベースのアクティビティを行います。	1通	60	2			○	○			○	○
6	○		英語検定 I	6クラス編成によりそれぞれが目指す級、及びスコアの早期取得を目標とします。総合的な英語力育成のため、講義と併せアウトプットの活動も並行して行います。	1通	##	8	○	△		○			○	○
7	○		マナー・接遇 I	社会人としてのマナーや接客対応の考え方を学び必要な資質を身につける事を目標とします。また、サービス接遇検定や日本語検定取得をめざして検定対策授業も行います。	1通	90	3			○	△	○		○	○
8	○		ボイストレーニング I	自分の声を知り、声のコントロール法を習得することを目標とします。発声・呼吸・滑舌を軸に自分の声を自覚し、磨き鍛える学習をします。	1通	30	1			○	○				○
9	○		イメージアップ I	清潔感のある身だしなみを基本として、ヘアメイク・スキンケア等、メイクの基本を学びます。セルフブランディングに基づき業界に応じたイメージアップを目標とします。	1通	30	1			○	○			○	○
10	○		第二外国語 I	英語以外の外国語として、中国語または韓国語を選択し、文字や発音などの基礎から学習します。将来の職業を想定し、接客に活かせる会話文を実践的に習得することを目標とします。	1通	60	4	○	△		○				○
11	○		外国語会話 I	実生活に密着した「伝わる」日常会話の習得を目標とします。より自然な会話例をもとに、具体的な状況を設定し身近且つ実践的なトピックをテーマに取り上げ学習します。	1通	30	1	△	○		○				○

12	○			T S O E W I C I	英語のスピーキング能力を判定するTOEIC Speaking Test 100点以上の取得を目標とします。オンライン学習を交えたアウトプットを軸とし、実践的な本番形式の授業を行います。	1 通	30	1	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13	○			海 外 生 活 研 修	異文化交流体験及び海外語学留学を通して、海外で生活ができる語学力と生活力を身につけることを目標とします。留学前には留学英会話演習として、自己紹介の基礎から学びます。	1 通	60	2	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	○			海 外 文 化 研 修	異文化交流体験及び海外語学留学を通して、海外生活を快適に送るための文化理解を様々な体験を通して身につけることを目標とします。世界の代表都市について調べ各自ガイドブックを作成します。	1 後	60	2	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	○			C o m m u n i c a t i v e E n g l i s h I	課題解決型英会話学習と児童英会話から選択し1・2年生合同で行います。課題解決型英会話は世界の国々をテーマにグループワークやレポートを発表、児童英会話は保育園での模擬授業実施を目標とします。	1 通	30	1	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	○			ビ ジ ネ ス 英 語 検 定 I	日商ビジネス英語検定3級の取得を目標とします。英文レターや英文E-mailについての読解及び作成スキルの習得と共に海外貿易に関する基礎知識を学びます。	1 通	30	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	○			比 較 文 化 研 究 I	グローバル社会において必要な「異文化理解力」を身につけることを目標とします。世界各国の文化を比較しながら、自国文化や世界事情や問題についても理解を深めます。	1 通	30	1	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	○			V o c a t i o n a l E n g l i s h I	様々な業界・職種の特徴やそれぞれのビジネスシーンで使われる業界・職種別の英会話フレーズを習得し、ロールプレイング形式での学習を通して理解を深め、職業意識を高めます。	1 後	30	1	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	○			M i n d A w a r e n e s s	セルフコントロールと人間関係のスキルにおける、選択理論心理学の体系的理解を目標とします。ペアワークやグループディスカッションなどの活動を通して学びを深めます。	1 前	30	1	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	○			コ ミュ ニ ケー シ ョ ン サ ポ ー ト II	学内の各種行事を実施するための科目です。集団行動や活動を通して多くの交流をもつことを目的とします。また、観光分野知識として、国内外の観光地理の基礎も学習します。	2 通	30	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○
21	○			キ ャ リ ア サ ポ ー ト II	目指す業界への就職内定と、就職後必要となる社会的知識の習得を目標とします。社会に出るための事前準備として、知識を広げることが目的とした教養講座を行います。	2 通	60	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	○			I リ テ ラ シ ー II	パソコンの幅広い活用方法習得を目的とし、Excel検定への挑戦やWordを利用したレポート作成を行います。また、昨今の情報化社会には欠かせない知識として、セキュリティやモラル、個人情報や著作権についても学習します。	2 通	60	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	○			英 会 話 II	1年次の応用として、より高度な語彙を使い、会話の展開が出来る力の育成を目標とします。毎授業、異なったテーマでそれに基づいた会話の実践をペア・グループワークで学びます。	2 通	60	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	○			英 語 検 定 II	6クラス編成によりそれぞれが目指す級、及びスコアの取得と更新を目標とします。出題傾向を掴み、英語の運用能力を身に付けるため、4技能を意識した反復練習を行います。	2 通	##	8	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○

25	○		マナー・接遇Ⅱ	社会人としてのマナーや接客時に心掛けなければならないことを引き続き学習します。資格としてビジネス実務マナー検定や文書検定、サービス接遇検定の上級合格を目標とします。	2通	90	3		○	○	○	○	
26	○		ボイストレーニングⅡ	的確に声のコントロールが出来ることを目標とします。1年次に習得したことを強化し、応用編として好感が持てる声を目指してトレーニングを行います。	2通	30	1		○	○		○	
27	○		イメージアップⅡ	1年次に引き続き、全身のイメージアップを目標に色彩（カラーコーディネート）を学び、自身を更に輝かせるためのブラッシュアップを行います。	2前	30	1		○	○	○	○	
28	○		第二外国語Ⅱ	1年次に引き続き、中国語または韓国語を選択し、接客のあらゆる場面で使われる会話をロールプレイ形式で学習します。応用力を深め、即戦力として使えることを目標とします。	2通	60	4	○	△		○	○	
29	○		外国語会話Ⅱ	自分の言葉で、自分の想いを発信出来る会話力育成を目指します。即戦力として活躍出来る様、プレゼンテーションや面会の約束・取り消しなどビジネスシーンを想定し学びます。	2通	30	1	△	○		○	○	
30	○		T O E I CⅡ	1年次に引き続き、更なるハイスコア取得を目標とします。既習の基本範例をもとに、陳述問題・留守番電話応答問題等も新たに学び、難問にも対応出来る応用力を身につけます。	2通	60	2	△	○		○	○	
31	○		Communicative EnglishⅡ	課題解決型英会話学習と児童英会話から選択し1・2年生合同で行います。課題解決型英会話は世界の国々をテーマにしたグループワークやレポート発表、児童英会話は保育園での模擬授業実施を目標とします。	2通	30	1	△		○	○	○	
32	○		ビジネス英語検定Ⅱ	海外貿易の輸出入等、物の流れに関する応用知識が問われる日商ビジネス英語検定2級、訪日観光客への英語による対応スキルを測る観光英語検定からの選択制検定対策授業です。	2通	30	2	○		○		○	
33	○		Drama English	映画・TV・新聞などから発信される最新の英語・旬の英語の習得を目標とします。ロールプレイングや動画制作など多角的なアウトプットを行うことで豊かな表現力を習得します。	2後	30	1		△	○	○	○	
34	○		比較文化研究Ⅱ	自国文化・風習への理解を素地に、国際儀礼に関する学習を通じて視野を広げ、印象の良い柔軟な対応力と世界標準の国際マナーを習得します。また外部からの外国籍講師による講義も行います。	2通	30	1	△	○		○	○	
35	○		English Reading	各自の英語レベルに応じた書籍の多読を通じ、イディオム・語彙力の強化を目標とします。読了ごとに書籍内容の要約と感想を各自がまとめ、読書記録の蓄積を可視化し自信に繋がります。	2後	30	1			○	○	○	
36	○		Vocational EnglishⅡ	外資系企業へも積極的に自信を持って挑戦出来るよう、英文履歴書を作成し、それに基づいた英語による面接対策を一人ひとりの個性を引き出しながら行います。	2後	30	1	△	○		○	○	
37	○		ICTプレゼンテーション	ICTツールを活用して、必要な情報収集・情報発信ができる力を身につけ、相手に「伝わる」ことを目標にした、効果的なプレゼンテーションができる力を習得します。	2後	30	1	△	○		○	○	
38	○		卒業課題	ディプロマポリシーを基盤として2年間で習得した知識やスキルを振り返ることを行います。その学びの集大成としての課題を目に見える形で作り上げることを目標とします	2後	90	3			○	○	○	○



合計	38 科目	1860 単位 (単位時間)
----	-------	----------------

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価の科目がないこと</li> <li>・ 総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること</li> <li>・ 学納金の未納がない事</li> </ul>	1 学年の学期区分	2 期
履修方法： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修科目は全て履修を行い、選択科目は対象科目から選択とする</li> </ul>	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																															
静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校		平成20年3月21日	牧田 行雄	〒 420-0822 (住所) 静岡県静岡市葵区宮前町110-11 (電話) 054-267-6330																															
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日	杉浦 哲	〒 420-0857 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-202-2490																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	専門課程(文化・教養)	国際コミュニケーション科 コンシェルジュコース	平成21(2009)年度	-	平成29(2017)年度																														
学科の目的	日本が誇るホスピタリティ精神と質の高いサービス接遇の力を身につけるため、「広範な接遇実践力」「ホスピタリティマインド」「個別最適型提案力」の習得を教育目標とし、上質なおもてなしが求められる接客の最前線において「会いたくなる」おもてなしのスペシャリストの育成を目的とする。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【取得可能な資格】社会人ホスピタリティ検定試験、リテールマーケティング(販売士)検定試験3級、TOEIC Listening&Reading Test、実用英語技能検定、サービス接遇検定試験1級、日本語検定3級、ビジネス実務マナー検定試験2級、ビジネス文書検定試験2級、日本赤十字社救急法救急員、Powerpointプレゼンテーション技能認定試験初級、Excel表計算処理技能認定試験3級・中途退学率:7.4%(令和5年度)																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,860 単位時間 単位	510 単位時間 単位	420 単位時間 単位	330 単位時間 単位	0 単位時間 単位	600 単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)																																
60人	23人	0人	0%																																
就職等の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■卒業者数(C) : 9人</li> <li>■就職希望者数(D) : 8人</li> <li>■就職者数(E) : 8人</li> <li>■地元就職者数(F) : 3人</li> <li>■就職率(E/D) : 100%</li> <li>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 38%</li> <li>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 89%</li> <li>■進学者数 : 0人</li> <li>■その他</li> </ul> <p>卒業者数9名に対して就職者8名、残りの1名は自己就職となる。</p> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生)</li> <li>・小売販売業界、ホテル業界、接客業等</li> </ul>																																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無																																
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.s-air.ac.jp/course/com_02business/">https://www.s-air.ac.jp/course/com_02business/</a>																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,860 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,860 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>8 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>12 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位</td></tr> </table>							総授業時数	1,860 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,860 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	8 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	12 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位	うち必修授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位
総授業時数	1,860 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																		
うち必修授業時数	1,860 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	8 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	12 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																		
総授業時数	0 単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位																																		
うち必修授業時数	0 単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>4人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	4人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																		
計	4人																																		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業や様々な商業施設で「顔」となる「会いたくなる」おもてなしのスペシャリストを目指した人材輩出に於いて、必要な技能・知識・姿勢等の企業及び業界ニーズを取り入れるために教育課程編成委員会を開催し、業界団体及び企業関係者の意見を踏まえた授業科目、授業時間を編成していく。教育内容については時流に即した柔軟な見直しを定期的に図り、カリキュラム・シラバスの内容を改善していく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

業界や企業のニーズ・意見を教育に反映させるため、学校組織内における教育課程編成委員会の位置づけを「静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校、教育課程編成委員会の位置づけに係わる規則」として規定している。またその運営も「静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校委員会等の規則」として規定しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制となっている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年2月1日現在

名前	所属	任期	種別
田崎 至教	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 広報室/テスト事業普及企画室 /名古屋事業所チームリーダー	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	①
井澤 友行	株式会社センチュリーアンドカンパニー 新規営業開拓室	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	③
内野 龍樹	株式会社 安心堂 管理部 課長 人事担当	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	③
牧田 行雄	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 校長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—
立石 公平	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 教務課長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—
大石 麻美	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 学科長(教務課長補佐)	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 2023年7月26日(水)15:00～16:00

第2回 2024年2月29日(木)15:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・多様なコミュニケーション力の醸成:新カリキュラムで新科目となる「ユニバーサルランゲージ I II」で英語・手話・中国語を学ぶ。
- ・異文化交流機会の創出:EF東京校に在籍する欧州を中心とした在日留学生を対象に静岡を案内するアクティビティを実施。
- ・個人情報保護に関するリテラシーの向上:2024年度後期に当該講座を実施予定。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①指導・評価して頂く企業である、株式会社センチュリーアンドカンパニーは、高島屋をはじめとする接客接遇の現場にインフォメーションスタッフの人材派遣を行う会社で、学生自らがおもてなしとは何かを考える際に、最前線で起こっている具体例を挙げて指導して頂けることが期待できるため選定した。また実践的な話も踏まえながら接客の面白さを伝えて頂ける企業姿勢を持っている事も考慮した。
- ②指導・評価して頂く企業である、株式会社安心堂は、静岡県内で最も歴史が長く、ブランド認知度及び規模の大きな高級宝飾品を取り扱う企業であり、これまでに学内企業講話、夏季インターンシップ、学生の企業訪問など関係を構築してきている。ホスピタリティマインドや接遇に対する姿勢、在り方についても、人の手による接客から生まれる実践力やマインド、提案力という、コンシェルジュコースが目指すディプロマポリシーの概念と共通しており、今後の学生指導、育成に緊密な連携が期待できるため受任を依頼した。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

①当科目は本校担当講師と企業との連携講義によって行う。連携企業は週1回のペースで本校の当科目の講義を実施し、その間は本校担当講師が企業との相談の上で講義を展開していく。基本事項毎のチェックとして企業に来校頂き、その基本事項の確認と評価・改善項目を教授頂き、次のステップへとつなげ、後期試験後に学生毎の総合評価を付ける。この評価を基に本校担当講師がこの科目の評価を学生毎に付ける。

②当科目は本校担当講師と企業との連携講義によって行う。連携企業は月1回程度のペースで本校の当科目の講義を実施し、その間は本校担当講師が企業との相談の上で講義を展開していく。基本事項毎のチェックとして企業に来校頂き、その基本事項の確認と評価・改善項目を教授頂き、次のステップへとつなげ、後期試験後に学生毎の総合評価を付ける。この評価を基に本校担当講師がこの科目の評価を学生毎に付ける。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
コンシェルジュ I	コンシェルジュに代表される、接客業界に於いて必要な基本マナー、社会常識や業務知識・技能の習得を目標とする。毎授業ロールプレイングを通し「知識」のみならず、「自ら考える」ことを念頭に学ぶ。	株式会社センチュリーアンドカンパニー
インフォメーション コーディネート	ファッション、皮革製品、貴金属・宝飾品、時計、家具など国内外の「老舗」について、歴史と取り扱いの主力商品をテーマに取り上げる。また、お客様が求める情報を迅速且つ的確に提供するために、どのような準備をすれば良いか、また情報の有効な活用手法や伝え方について学び、個別最適型提案力の醸成と確立を目標とする。	株式会社安心堂

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修担当を配置し、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図る為に「教職員研修」を企業及び研究機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ビューティーコンサルタント研修	連携企業等:	コーセー化粧品販売株式会社
期間:	令和6年2月8日(木)	対象:	コンシェルジュコース教員
内容	①多様性ガイドライン(障がい)②新商品紹介手法(言語化・認知ワーク)③接客手法アセスメント		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	人を励ます話し方「ペップトーク」	連携企業等:	(株)ウチダ人材開発センタ
期間:	令和6年1月5日(金)	対象:	全教員
内容	・「ペップトーク」の考え方を学び、理解し実践できるようにする。 ・授業や会議での発言をポジティブに変換することにより建設的な話し合いができるようにする。 ・何故ハラスメント(パワハラ・アカハラ)になるのか。 ・心に寄り添う真の意味でのポジティブ語とは。		

研修名:	今を生きる若者の背景と価値観	連携企業等:	株式会社博報堂
期間:	令和6年1月9日(火)	対象:	全教員
内容	現代の若者の価値観や思考、行動の変容を知る		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	リテールサービス研修	連携企業等:	販売店
期間:	令和7年2月	対象:	コンシェルジュコース教員
内容	接客販売サービスに係る商品知識、提案方法等に係る研修		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	未定	連携企業等:	未定
期間:	令和7年1月	対象:	全教員
内容	教員指導力向上のための研修		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として運営している。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	○教育理念並びに教育目標が明確に示されているか
(2)学校運営	○教職員の能力、業務内容の評価を定期的に行っているか
(3)教育活動	○シラバスが作成され学生に配布されているか
(4)学修成果	○就職率の向上が図られているか
(5)学生支援	○進路・就職に関する支援体制は整備されているか
(6)教育環境	○講義室、実習室の管理は適切に行われているか
(7)学生の受入れ募集	○入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか
(8)財務	○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
(9)法令等の遵守	○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
(10)社会貢献・地域貢献	○学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
(11)国際交流	○留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会後に意見を取り纏め、学校としての対応を決定。1年間を通して改善に努め、次回の委員会時に改善を報告する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
大石 斉	矢崎総業株式会社	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
八太 健一郎	株式会社フジドリームエアラインズ	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
井澤 友行	株式会社センチュリーアンドカンパニー	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
増崎 陽介	株式会社 ANA Cargo	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
内野 龍樹	株式会社安心堂	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
平岩 美貴代	株式会社ドリームスカイ名古屋	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
関 理恵	ANAエアポートサービス株式会社	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
村山 弘之	株式会社JTB	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
澁谷 妙子	株式会社ジェイアール東海ホテルズ ホテルアソシア静岡	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
塚本 裕作	卒業生(同窓会会長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生
高橋 美江	在校生保護者(後援会会長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	在校生の 保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )  
URL: <https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/>  
公表時期: 令和6年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動及び学校運営についての理解を求め、企業等の関係者との連携及び協力の推進に資するため、詳細について「学校評価報告書」と「学校情報」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	入学者数、学修時間数、取得可能資格、卒業者数、主な就職先
(3)教職員	教職員数、組織、研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6)学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置

(8)学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣状況
(11)その他	その他の教育活動(附帯事業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <https://www.s-air.ac.jp/entrance/disclosures/>

公表時期: 令和6年6月30日

授業科目等の概要

(専門課程 (文化・教養) 国際コミュニケーション科コンシェルジュコース)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○		コミュニケーション サポート I	入学式、始業式、終業式など学内の各種行事を実施するための科目です。集団行動や活動を通してコミュニケーション力の向上を図ります。	1 通	30	1			○	○	○	○		
2	○		立居振舞い	社会に出る前の準備として、立ち居振る舞いと自己表現力の強化を図ります。所作、表現力、話す力等、就職活動の基本を学び習得することを目標とします。	1 後	30	1			○	○		○		
3	○		キャリアサポート I	就職活動開始までに、必要な基本スキルの習得を目標とします。目指す業界を決め、スムーズなスタートを切るため、各種情報の集め方や筆記試験対策、業界セミナー等を行います。	1 通	90	6	○	△		○			○	
4	○		I C T リテラシー I	プレゼンテーション、文章作成、表計算など、パソコン基本ソフトを実技レベルで学習します。また、Microsoft365のクラウドサービスを活用し、通信技術利用のコミュニケーションスキルを磨きます。	1 通	60	2			○	○		○	○	
5	○		英 会 話 I	6段階のレベル別クラス編成で、自分自身について英語で表現できることを目標とします。一人ひとりが考えと意見を持つことを重視し、タスクベースのアクティビティを行います。	1 通	60	2			○	○		○	○	
6	○		英 語 検 定 I	6クラス編成によりそれぞれが目指す級、及びスコアの早期取得を目標とします。総合的な英語力育成のため、講義と併せアウトプットの活動も並行して行います。	1 通	##	8	○	△		○		○	○	
7	○		マ ナ ー ・ 接 遇 I	社会人としてのマナーや接客対応の考え方を学び必要な資質を身につける事を目標とします。また、サービス接客検定や日本語検定取得をめざして検定対策授業も行います。	1 通	90	3		○	△	○		○	○	
8	○		ボイストレーニング I	自分の声を知り、声のコントロール法を習得することを目標とします。発声・呼吸・滑舌を軸に自分の声を自覚し、磨き鍛える学習をします。	1 通	30	1			○	○			○	
9	○		イメ ー ジ ア ッ プ I	清潔感のある身だしなみを基本として、ヘアメイク・スキンケア等、メイクの基本を学びます。セルフブランディングに基づき業界に応じたイメージアップを目標とします。	1 通	30	1			○	○		○	○	
10	○		第 二 外 国 語 I	英語以外の外国語として、中国語または韓国語を選択し、文字や発音などの基礎から学習します。将来の職業を想定し、接客に活かせる会話文を実践的に習得することを目標とします。	1 通	60	4	○	△		○			○	
11	○		ゲ ス ト サ ー ビ ス I	ケーススタディを軸に、ゲストサービスに於けるホスピタリティについての在り方や理解を深めます。型に捉われない豊かな発想力向上を目的とし、ロールプレイングも積極的に行います。	1 通	30	1	△		○	○		○		

12	○		表現技法基礎	TP0に応じた、幅広い表現力の習得を目的とし、お客様の耳だけでなく心に届く声、伝わる表現力を磨きます。発声の基本からオリジナル原稿の作り方、読み方、早口言葉のトレーニングまで多角的に学びます。	1通	30	1	△	○	○	○			
13	○		コンシェルジュⅠ	コンシェルジュに必要な基本マナー、社会常識や業務知識・技能の習得を目標とします。毎授業のロールプレイングを通し「知識」のみならず、「自ら考える」事を念頭に学びます。	1通	60	2	△	○	○	○	○	○	○
14	○		ホスピタリティマインド概論	ホスピタリティの基本的な知識と判断力を検定試験を通じ習得することを目標とします。毎回小テストを実施し理解を深め、検定取得に必要なホスピタリティマインドを学びます。	1通	30	2	○		○				○
15	○		茶道・着付け	日本の民族衣装である着物と、茶道の知識を通じ、日本の伝統的な立ち居振る舞いを身に付けることを目指します。ビジネスシーンにも生かすことの出来る様、反復練習を行います。	1通	30	1		○	○				○
16	○		異文化理解	グローバル社会において必要な「異文化理解力」を身につけることを目標とします。世界各国の文化を比較しながら、自国文化や世界事情についても理解を深めます。	1通	30	1	△	○		○			○
17	○		プレゼンテーション	ご案内スキルを向上させるために、人前で話すこと、情報をまとめること考え方を学び、実践できる基礎の習得を目標とします。課題と手法を示し原稿作成・発表を基本とします。	1後	30	1	△	○		○			○
18	○		E Q 開発	セルフコントロールと人間関係のスキルにおける、選択理論心理学の体系的理解を目標とします。ペアワークやグループディスカッションなどの活動を通して学びを深めます。	1前	30	1	△	○		○			○
19	○		海外研修	海外渡航の経験はもちろんのこと語学研修やアクティビティを通して、英語・外国語を実践しながら国際感覚を身につけ、異文化を体験・理解することを目的とします。	1後	60	2			○		○	○	
20	○		コミュニケーションサポートⅡ	学内の各種行事を実施するための科目です。集団行動や活動を通して多くの交流をもつことを目的とします。また、観光分野知識として、国内外の観光地理の基礎も学習します。	2通	30	1			○	○	○	○	
21	○		キャリアサポートⅡ	目指す業界への就職内定と、就職後必要となる社会的知識の習得を目標とします。社会に出るための事前準備として、知識を広げることが目的とした教養講座を行います。	2通	60	2		○		○		○	
22	○		I C T リテラシーⅡ	パソコンの幅広い活用方法習得を目的とし、Excel検定への挑戦やWordを利用したレポート作成を行います。また、昨今の情報化社会には欠かせない知識として、セキュリティやモラル、個人情報や著作権についても学習します。	2通	60	2			○	○		○	○
23	○		英会話Ⅱ	1年次の応用として、より高度な語彙を使い、会話の展開が出来る力の育成を目標とします。毎授業、異なったテーマでそれに基づいた会話の実践をペア・グループワークで学びます。	2通	60	2			○	○		○	○
24	○		英語検定Ⅱ	6クラス編成によりそれぞれが目指す級、及びスコアの取得と更新を目標とします。出題傾向を掴み、英語の運用能力を身に付けるため、4技能を意識した反復練習を行います。	2通	##	8	○	△		○		○	○



25	○		マナー・接遇Ⅱ	社会人としてのマナーや接客時に心掛けなければならないことを引き続き学習します。資格としてビジネス実務マナー検定や文書検定、サービス接遇検定の上級合格を目標とします。	2通	90	3		○	○	○	○			
26	○		ボイストレーニングⅡ	的確に声のコントロールが出来ることを目標とします。1年次に習得したことを強化し、応用編として好感が持てる声を目指してトレーニングを行います。	2通	30	1		○	○			○		
27	○		イメージアップⅡ	1年次に引き続き、全身のイメージアップを目標に色彩（カラーコーディネート）を学び、自身を更に輝かせるためのブラッシュアップを行います。	2前	30	1		○	○			○	○	
28	○		第二外国語Ⅱ	1年次に引き続き、中国語または韓国語を選択し、接客のあらゆる場面で使われる会話をロールプレイ形式で学習します。応用力を深め、即戦力として使えることを目標とします。	2通	60	4	○	△		○			○	
29	○		ゲストサービスⅡ	あらゆる接客接遇業界の現場に於ける具体的な実践力を意識した高次の知識習得と応用を目指します。ロールプレイングを中心に、おもてなしの心とゲストサービスの在り方を学びます。	2通	60	2	△		○	○			○	
30	○		表現技法応用	発声の基本を強化し、声や表情、相手に与える印象を含めた表現力の習得を目標とします。特定の相手から不特定多数を対象にした「伝える力」を学びます。	2前	30	1	△	○		○			○	
31	○		コンシェルジュⅡ	臨機応変な状況判断と即時即決を可能にするための、現場に即した対応力育成を目指します。討論とロールプレイングで、魅力的な提案力と確かな説得力を習得します。	2通	60	2	△		○	○			○	○
32	○		ホスピタリティマインド演習	1年次の検定対策学習のインプットを発展させ、演習形式の講義を通じ接遇業界の最前線で求められる、プロフェッショナルマインドの育成と実現を目標とします。	2通	30	1	△	○		○			○	
33	○		華道	日本の伝統美術である和の華道と洋のフラワーアレンジメント両方の基礎技術習得を目標とします。場面や相手に応じ、必要性に合わせたご提案方法についても学びます。	2通	30	1			○	○			○	
34	○		異文化接遇	自国文化・風習への理解を素地に、国際儀礼に関する学習を通じて視野を広げ、印象の良い柔軟な対応力と世界標準の国際マナーを習得します。また外部からの外国籍講師による講義も行います。	2通	30	1	△	○		○			○	
35	○		インフォメーションコーディネート	接客サービスにおいて、お客様が求める情報を迅速且つ的確に提供するために、どのような準備をすれば良いか、また情報の有効な活用手法を学び、個別最適型提案力の確立を目標とします。	2通	30	1	△		○	○			○	
36	○		観光接遇地理	接客接遇業界・職種でのご案内に役立つ観光地理及び世界遺産に関する知識と理解を深め、個々が持つご案内スキルの幅を広げます。	2後	30	2	○			○			○	
37	○		卒業課題	ディプロマポリシーを基盤として2年間で習得した知識やスキルを振り返ることを行います。その学びの集大成としての課題を目に見える形で作り上げることを目標とします	2後	90	3				○	○	○	○	
合計						37 科目		1860 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法

授業期間等

卒業要件：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修科目、必修選択科目の成績評価において「不可」の評価の科目がないこと</li> <li>・ 総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること</li> <li>・ 学納金の未納がない事</li> </ul>	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修科目は全て履修を行い、選択科目は対象科目から選択とする</li> </ul>	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。